

《論文》

神田外語大学附属図書館所蔵

シーボルト編／伊藤圭介・賀来佐之録「日本植物目録」について

遠藤正治・鳥井裕美子・松田 清

はじめに

神田外語大学附属図書館洋学文庫は、京都の古書店主若林正治が収集した洋学資料コレクションである。同図書館では二〇一四年度に「洋学文庫」プロジェクトが発足し、目録データベースが作成された¹⁾。プロジェクトリーダーで日本研究所の町田明広副所長は、データベース作成のための調査中に、標記の写本に挿入されたシーボルトの署名のある蘭文書簡一葉を発見された。

その後、発見者の町田副所長の依頼を受けて、遠藤、鳥井、松田の三名が共同研究することになり、松田が二〇一五年六月十日、標記の写本の書誌調査を行った。本研究の遂行にあたり、種々協力いただいた町田副所長に感謝致します。

す。

さきに遠藤正治・加藤僖重は、第一次来日期のP・F・フォン・シーボルトが日本植物をいかに研究していたかを示す草稿「日本植物目録」(ルール大学ボーム東アジア学部附属図書館所蔵)の分析を試みた²⁾。シーボルトは、伊藤圭介の助けを借り、圭介がもたらした腊葉標本などをもとに、日本の植物約一六〇〇種を、リンネの分類法ではなく、ドイツの植物学者クルト・シュブレンゲルの百科自然分類法にしたがって分類していたことが明らかになった。とくに加藤は、オランダ国立植物標本館所蔵のシーボルト・コレクションのうち伊藤圭介や水谷豊文ら尾張の本草家が贈った腊葉標本との比較を試み、約半数の七五二点が「目録」に該当する標本であることを明らかにした。これによって、これまで不明であった文政十年九月から翌十一年三月にいたる半年間の長崎

遊学期間における伊藤圭介のシーボルトとの植物研究の実態が彷彿と浮き上がってきた。

「日本植物目録」は写本がつくられ、圭介の原著『泰西本草名疏』の執筆に利用されたが、これまで圭介側にはその写本類が見あたらず、宇田川榕菴の『百綱譜』（武田科学振興財団杏雨書屋所蔵³）や江馬活堂の『失乙牡児鐸草木目録』（岐阜県教育文化財団歴史資料館江馬家資料）など圭介に近親の人物による類似写本が知られていた。これらとも比較して、圭介が筆写本を利用していたとすれば、「日本植物目録」の単なる筆写本ではなく、改訂筆写本であったものと想定せざるを得なかった。

今回出現した伊藤圭介・賀来佐之録「日本植物目録」は、圭介側の写本としていかなる性格をもつのであろうか。本稿では、果たしてシーボルトの「日本植物目録」の改訂筆写本であるか否か、大きな興味を持って分析・紹介することにする。

なお、シーボルトの署名のある賀来佐之宛て蘭文書簡は、「日本植物目録」の成立において賀来佐之が大きな役割を果たしていたことを物語る貴重な資料である。翻字、翻訳を掲げて検討を試みる。

1 伊藤圭介・賀来佐之録「日本植物目録」の書誌と構成

写本一冊、四つ目、袋綴じ。右綴じ。縦一六・六cm、横一二・三cm、全六二丁。表紙は薄茶色。表紙左上に題簽の剥離した跡が残る。本文は無罫紙、全每半葉一五行に、日本語のラテン語の学名と和名（カナ書き、ときに漢名を伴う）を墨書する。

見返しに、「Naamlyst / van / Japansche / gewassenen.」〔「日本植物目録」と訳しておく〕と四行の朱書がある。表紙から剥離した題簽は不明である。見返しの力紙は糊がはがれ、表紙から遊離している。

裏表紙の見返しは白紙。第六二丁の裏には、朱書で、「呈／公輔賀来盟兄／楮鞭畔／（空白）／尾張 伊藤舜民／拜具／辛卯榴夏十又一日」とあり、伊藤圭介が賀来佐之宛てて天保二年（一八三二）五月十一日付けで、この写本を贈呈したことがわかる。

第六二丁表には、「尾張 伊藤舜民戴堯／豊前 佐来佐之公輔／全録」との墨書があり、伊藤圭介筆と認められる（図1参照。「全」は「同」の異体字）。その脇に「賀来氏図書記」の朱印（縦二九mm、横二一mm）が捺されている。賀来家に伝来したものが流出し、古書店主故若林正治氏の有に帰し



図1 「日本植物目録」見開き（神田外語大学附属図書館所蔵）

たことがわかる。

第六十一丁裏から第二丁裏まで、1～123と頁付けが算用数字で墨書されている。すなわち、本写本は装丁が右綴じの和本仕立てであるが、本文は左綴じの洋本式に頁付けされた和洋折衷本である。

本文のラテン語学名（アルファベット使用）、和名（カタカナ書き）、漢名（漢字使用）の筆跡は、後述のように伊藤圭介でも賀来佐之でもない第三者のものと思われる。しかしここでは本資料を伊藤圭介・賀来佐之録「日本植物目録」または筆写本と略称し、ポーフムの資料をシーボルト草稿「日本植物目録」またはシーボルト草稿と略称することとする。

本文の構成は、先に遠藤正治・加藤儔重が紹介したルール大学ポーフム東アジア学部付属図書館蔵のシーボルト草稿「日本植物目録」Siebold, Plantarum japonicarum nomina indigena と同じく、シュプレングエル『植物学入門』[K.P.J. Sprengel, *Anleitung zur Kenntnis der Gewächse*. 1817-18. の百科分類法科名（ドイツ語）のシーボルト訳ラテン語科名によって、第一科 Naiades（イバラモ科）から第一〇〇科 Rosaceae（バラ科）に分類された日本植物の学名、和名、ときに漢名の対照リストである。

2 「日本植物目録」の性格

「日本植物目録」の分類法

伊藤圭介・賀来佐之録「日本植物目録」の大局的理解のためには、まず、植物学史上でもあまり馴染みのないシユプレングルの百科自然分類法について見ておかねばならない。

シユプレングルは、「自然な類縁性にもとづく植物学の概要」(『植物学入門』巻二、一八一七年)のなかで、自らの分類法には明確な体系は無く、植物の類縁性を研究することが大切であるとし、植物の外部形態とともに内部構造を分類の根拠とすべきこと、また、単純で未熟な植物から高度で多様で調和のとれた植物へと、完全性にもとづく植物の位階づけをおこなうべきことを説いている。たとえば、羽状複葉を単葉より上位に、多弁花冠を単弁花冠より上位に、蒴果を瘦果や穎果より上位に置いた。

シユプレングルは明確に述べていないが、三十年以前に発表されたフランスのアントワーヌ・ロランド・ジュシユールの『植物属誌』(一七八九年)の百目分類法の影響を多分にうけている。ジュシユールは雄蕊または花冠の子房に対する位置、子葉数などを最も重要な形質とした。また、無子葉類(真歯類、藻類、苔類、蘚類、シダ類、イバラモ類など)、単子葉

類、双子葉類に大別し、子葉類について、さらに雄蕊と子房との配置で綱(Classis)を分けたもので、各綱に目(Ord.)が配されており、目数は百におよぶ。

一方、シユプレングルの百科法は、子房の位置や子葉数には触れず、おもに萼・花弁・雄雌蕊・果実・胚などの形質によって科(Familie)を分類したが、無子葉類、単子葉類、双子葉類の大体系はジュシユールの体系にならっている。ジュシユールの目数とシユプレングルの科数が一致しているのは偶然であるが、個々には共通する科と目が多い。

シユプレングルの百科名はドイツ語表記しか示されていないので分かり難い。検索の便宜のため、「日本植物目録」に載るシーボルトのラテン語訳をもとに、百科名の一覧を表1に掲げておく。

進化論による系統分類法が確立する以前の分類法なので、今日のとはかなり異質である。一例をシソ科にとり、シユプレングルの『植物学入門』の記述に見ておこう。

●第四三科 シソ科 (Labiatae)

この科はクマツヅラ科やムラサキ科と同類であるが、多くの奇妙な特質で際立っている。

茎はたいいてい四角で、その断面には角にねじれた四つの束があり、いくらか小さなへりがある。

葉は常に対生である。

表1 シュプレングルの百科一覧表

シュプレングルの『植物学入門』（Kurt Sprengel, *Anleitung zur Kenntniss der Gewächse*. Halle, 1817-18）所載の百科分類法の科名を挙げた。原文にはドイツ語の科名のみが表記されているので、おもに「日本植物目録」に載るシーボルトのラテン語訳名とその和訳を示した。

番号	科名ラテン名	科名訳名	大分類	番号	科名ラテン名	科名訳名	大分類
1	Fungi	真菌類	無子葉類	51	Styraceae	エゴノキ科	双子葉類
2	Algae	藻類		52	Ericaceae	ツツジ科	
3	Lichenes	地衣類		53	Campanulacae	キキョウ科	
4	Homalloyhleae	菌叢類		54	Lobeliae	ミソカクシ科	
5	Hepaticae	苔類		55	Compositae	キク科	
6	Musci	蘚類		56	Aggregatae	東生花科	
7	Filices	シダ類		57	Valerianae	オミナエシ科	
8	Pteridaceae	イノモトソウ科		58	Cucurbitaceae	ウリ科	
9	Lycopodiaceae	ヒカゲノカズラ科		59	Rubiaceae	アカネ科	
10	Equisetaceae	トクサ科		60	Caprifoliae	スイカズラ科	
11	Najades	イバラモ科	61	Umbelliferae	セリ科		
12	Aroideae	テンナンショウ科	62	Saxifragae	ユキノシタ科		
13	Cyperaceae	カヤツリグサ科	63	Terebinthaceae	テレピン科		
14	Gramineae	イネ科	64	Rhamneae	クロウメモドキ科		
15	Junaceae	イグサ科	65	Diosmaceae	ディオスマ科		
16	Palmae	ヤシ科	66	Berberidaceae	メギ科		
17	Coniferae	球果植物	67	Rutaceae	ミカン科		
18	Sarmentaceae	つる植物	68	Menispermae	ツツラフジ科		
19	Coronariae	ユリ科	69	Magnoliaceae	モクレン科		
20	Irideae	アヤメ科	70	Meliaceae	センダン科		
21	Hydrocharitides	トチカガミ科	71	Malpighiaceae	キントラノオ科		
22	Scitamineae	ショウガ科	72	Acerinae	カエデ科		
23	Musaceae	バショウ科	73	Sapideae	ムクロジ科		
24	Orchideae	ラン科	74	Onagreae	アカバナ科		
25	Stylidiaceae	ステイリディウム科	75	Salicariaceae	サリカリヤ科		
26	Aristolochaeae	ウマノスズクサ科	76	Cruciferae	アブラナ科		
27	Polygonaceae	タデ科	77	Papaverceae	ケシ科		
28	Chenopodeae	アカザ科	78	Ranunculaceae	キンポウゲ科		
29	Santaleae	ビャクダン科	79	Polygaleae	ヒメハギ科		
30	Thymelaeaceae	ジンチョウゲ科	80	Leguminosae	マメ科		
31	Proteaceae	ヤマモガシ科	81	Capparidiae	フウチョウソウ科		
32	Laurineae	クスノキ科	82	Guttiferae	オトギリソウ科		
33	Amentaceae	尾状花冠植物	83	Agrumae	ミカン科		
34	Urticeae	イラクサ科	84	Geraniae	フウロソウ科		
35	Tricoceae	三小果科	85	Malvaceae	アオイ科		
36	Plantaginaceae	オオバコ科	86	Bytneriaceae	アオギリ科		
37	Nyctaginaceae	オシロイバナ科	87	Ochnaceae	オクナ科		
38	Primulaceae	サクラソウ科	88	Dilleniaceae	ヒワモドキ科		
39	Personatae	仮面状花冠科	89	Tiliaceae	シナノキ科		
40	Acanthaceae	キツネノマゴ科	90	Cistaceae	ハンニチバナ科		
41	Bigononiae	ノウゼンカズラ科	91	Jonideae	スミレ科		
42	Viticeae	ハマゴウ科	92	Caryophyleae	ナデシコ科		
43	Labiatae	シソ科	93	Portulacaceae	スベリヒユ科		
44	Asperifoliae	ムラサキ科	94	Aizoaceae	ツルナ科		
45	Solaneae	ナス科	95	Cereae	サボテン科		
46	Convolvuleae	ヒルガオ科	96	Loasaceae	ロアサ科		
47	Jasmineae	ソケイ科	97	Myrtaceae	フトモモ科		
48	Gentianeae	リンドウ科	98	Sedeae	ペンケイソウ科		
49	Contortae	回旋花科	99	Melastomeae	ノボタン科		
50	Sapotae	アカテツ科	100	Rosaceae	バラ科		

花はたいてい旋回している。萼は、例外があるが、五裂。ある種のサルビアでは三歯であり、三本の葉脈が上部の歯につながっている。しばしば、萼には一〇本の葉脈があり、先端で歯の裂け目に通じる。しかし、たいへん重く、多くのクマツヅラ科の場合のように、萼は決して子房と融合しない。

花冠はめずらしく相称、通常二唇五裂である。上唇はカサのようになり、あるいは裂けている。下唇は三裂片。また、下唇の中央裂片の部分は、上唇が分かれないうき、五裂に見える。

雄ずいはたいてい五本で、みな生殖可で、花筒の中にはめ込まれている。しかしまた、裸の二本の雄ずいが前面に出る。クマツヅラ科の例では五本の雄ずいのうちただ二本が生殖可で、サルビアの例では雄ずいのかわりに先端が覆われた突起となっているものがある。非常に豊かな生育については、この生殖可の真の雄ずいのなかの突起は無視される。シン科の雄ずいは、たいてい、カプトまたはドーム状に収縮した上唇の下にある。イヌコマ属やカエンキセワタ属にみられる。薬の作用が成就した後で、傍らに落とされる。雄ずいが上唇の下になく、花冠が規則正しい多くの属がある。ハッカ属の例のように突き出ている。あるいはヤナギハッカ属やロフアントウス

属の例のように、花筒が曲がり、上唇が下方を向く。あるいは雄ずいがたいへん短いので、シデリティス属のように、花筒の中に隠れている。

薬は通例二裂で、ときどき一裂片が上に他が下になっている。各裂片はしばしばしっかりした膜でくざられた二区画に開く。(ラベンダー属、チシマオドリコソウ属)。花粉は球形または卵形である。

柱頭はたいてい分裂しており、雌ずいは四つの子房の間にある。子房には多肉で腺状体があり、蜜腺の働きをし、子房に養分を与える導管となる。

果実は四分果、あるいは核果で、その中に胚がタンパク体を保持している。

科名 Labiatae はジュシユの命名による。現在は Lamiaceae に改められている。シュブレンゲルはシン科をさらに三族に分類している。第一族は二強雄ずいのアオギリ族 (Salvia, Rosmarinus, Lycopus など)、第二族は四雄ずい、四裂の萼、一唇花冠のイヌハッカ族 (Nepeta, Hyssopus, Mentha, Teucrium, Ajuga, Lavandula, Glechoma, Lamium, Stachys など) および第三族は二唇形萼と四雄ずいのコウスイハッカ族 (Melissa, Dracocephalum, Clinopodium, Thymus, Origanum, Melittis, Ocimum, Scutellaria, Prunella など)。これらの植物はいずれも現在でもシン科に分類されて

いる。シーボルトは「日本植物目録」において、この三族の分類には従っていないが、ほぼシュプレングルの配列順に属名を配列している。ただし、*Panzeria*、*Acinos* はシュプレングルにはなく、シーボルトが加えた属である。なお、*Labata* を挙げてはいるが、この属名はなく、科名とみなされる。

圭介・佐之録「日本植物目録」とシーボルト草稿との比較

まず、伊藤圭介・賀来佐之録「日本植物目録」の全文の翻字を試みたところを付表に示しておく。これをシーボルト草稿「日本植物目録」（ルール大学ポーフム東アジア学部付属図書室所蔵、(一・一七三・〇〇〇)）と比較すると、細部に相異が見られるが、概ね同内容であることがわかる。収載植物は一五七九種を数え、シーボルトの草稿の一五九九種より二〇種少なくなっている。意識的に削除したもののほか写し落として若干あったためと解せる。以下にこの写本の細部の特徴を見ておこう。

●**科名** シーボルト草稿をほぼ忠実に写している。シュプレングルの百科中、第一科真菌類から第一〇科トクサ科にいたる無子葉類を除き、第一科イバラモ科から第一〇科バラ科まで順次写されている。ただし、第五三科キキョウ科が第五二科ツツジ科の前に記載されて順序が逆転しているが、

シーボルトの草稿でも同様である。付表ではシュプレングルの科順に改めた。

科名については、誤綴りや脱字が目立ち、訳名も付けられていない。シュプレングルの科に最初に訳名をあたえたのは宇田川榕菴である。榕菴は科を属と訳したので、禾本属（イネ科）・蘭属（ラン科）・唇花属（シソ科）・繖花属（セリ科）・十字花属（アブラナ科）・薔薇属（バラ科）などである（宇田川榕菴述「百綱略譜」、天保六年^④）。

後半でいくつかの科についてローマ字表記の科番号を書き入れている。写本の際、シュプレングルの原書を参考にしていたことを窺わせる。

●**属名** 学名はむろんリンネの二命名法にもとづきラテン語表記がなされている。属名については、シーボルトの草稿を改訂することなく、ほぼ忠実に写している。ただし、全体を通じて誤綴りや脱字がかなり多く、ラテン語名の理解がほとんどないまま写したことが窺われる。シーボルト独特な綴り方、たとえば、「**+**」を横棒なしに綴る癖を理解できなかったことも、誤綴りの一因になっている。付表では、可能な限りシーボルトの草稿、シュプレングルやツェンペリーの原書などに遡って校訂した属名を示した。

「**一作……**」とある例がいくつもあり、他の写本も作られており、それらを参考に属名の綴りを訂正している。

●**種名** 種名については、ラテン名が宛てられている場合はほぼ忠実に写されているが、和名がローマ字表記された仮の種名については部分的に改められたものが散見される。たとえば、

Taxus inukaja → Taxus inoekaja

Ruscus? hjakubu → Ruscus? hjakoeboe

ローマ字のロ(ウ)に馴染めず、オランダ表記のoe(ウ)に改めており、蘭学を学んだ者が写していたことを窺わせる。

●**命名者・出典** シーボルト草稿では、種名のあとに命名者の略称か、あるいは出典を略記号で示している。とくにツェンゼリー C.P.Thunberg に「ツェー、Th.」や『日本植物誌』*Flora japonica*, 1784 を表す「Th.」や『日本植物の新種』*Plantarum japonicarum novae species*. Dissert. respondent O. A. Wallström, Upsala, 1824 を表して区別して「O. Th.」の例はもつとも多く草稿では一七六例を数えるが、筆写本では一六九例を写している。しかし、その意味が十分理解できなかったためか、誤綴りが多い。付表ではシーボルトの草稿に従って正した。

シーボルトの命名には Sieb. または S. で示し、一二九例を数えるが、筆写本では、ほぼすべてを写しており、シーボルトの命名についてはよく理解していたことがわかる。

水谷助六(豊文)の命名には草稿では MN で示し、五五例を数えるが、筆写本ではうち四一例が写されているのみで、写し落としてが多い。

伊藤圭介の命名には草稿では「K.」または *kaiske* で示し、五一例を数えるが、筆写本では四四例でやはり写し落としてが多い。

なお、シーボルトの草稿、筆写本ともに、リンネ Linn. を命名者とする例が異常に少ない。これは、リンネの説の大半が Th. ツェンゼリーの『日本植物誌』に含まれていることと、また、リンネの『自然の体系』植物界、第十六版(『カー・リンネの植物分類学』Caroli a Linné, *Systema vegetabilium*. J.J. Roemer et J. A. Schultes, vol.1-6, 1817-1820) が用いられており、これが RS. として引用されたことなどに由来するものがある。

●**和名** おおむねシーボルトの草稿に従っているが、細かな点で変更が加えられている。和名の変更例は二五例を数える。うち一三例は草稿に和名を欠くもので、すべてローマ字表記の種名から和名を推定して書き入れたものである。残り一二例につきを示す。

Polygonum chinense Th.f. var. β カラダ子ノア井 → コ
オナンタイセイ

Liquidambar styraciflora Pus. フウ → カイデ

Callicarpa jannamurasaki β *fractibus albis* →

ロムノサキ

Myrsotis apula Th.f. カワラケナ → タビラコ

Picotia? *kajame* M.Z.lit.k. → カワラケナ、ホトケノザ

Tagetes tenrinkba H.J.K. テンリンクワ → ホウヲホサ

ウ

Hedysarum virgatum Th. ロハギ → ミツバハギ

Viola odorata DC. → コヤマソウ

Viola japonica DC. コヤマソウ → スミレ

Rubus occidentalis Th.f. ハスノハイチゴ、○タクリイチ

コ → ナワシロイチ

Rubus mollucanus Th.f. フユイチゴ → ハルイチゴ

Rubus kusotsigo? M.Z.k. → イチゴ

あまり大きな変更はなく、写す段階での和名の再考はあまりなかったものと思われる。しかし、「圭按」として、圭介自身が和名の再考を行っていたことを示す例がいくつかある。

Orchidea nankakuran M.Z. ナンカクラン → 圭按此説非

Urtica dioica? var. β → 上野ハレナ山イラクサ、圭自

ラ采ル所ナリ、再按即ギヨクシユク艸

Leontodon taraxacum β *floribus albofloritis* → 圭按是

侘人ノ加フルモノナラン、大丁艸ハ前ニ出ツ、ムラサ

キタンボ、

Galium? *tsukubanesoo* M.Z. ツクバ子サウ → 圭云此品

王孫ト同名也一名キスタサウ

Galium? *kurunabanatsukubanesoo* M.Z.lit.sae n28 → ク

ルマハノツクハ子サウ、圭按是権氏ノ追加誤ナリ、是

所謂八葉ノ王孫ニシテ「パリス」ナリ、前ニ出ツ

Carum kumanomizuki M.Z. → 圭按クマノミツキ歟、然

トモ重複

和名の綴りについては写本の段階で多くの異動がみられる。濁点の加除、オとヲ、エとエ、ジとヂ、など変更が多いが、はつきりとした傾向はみられない。ただし、ネは変体かなの子で草稿を忠実に写している。また、カラダネを筆写本で漢種に改めている。

●漢名 和名に漢名を付したのは草稿で二〇例とごく僅かであったが、筆写本では四〇四例と多い。写本の段階で意識的に付け加えられたのである。しかし、全体の約1/4にすぎない。漢名は、おおむね水谷豊文の『物品識名』（文化六年）および『物品識名拾遺』（文政八年）に拠ってつけている。これらの書と比較すれば、すべてに漢名がつけられたのではなく、ごく一部に限られていたことがわかる。

●付記 筆写本には草稿に無い付記が加えられた例がいくつかあり、作成時の状況を伝えていて興味深い。草稿の原文を

掲げ、↓印以下に筆写本の付記を示そう。

Polygonum filiforme Th.f. シツビキ→シツビキ、金線柳
(誤) 椎再考

Polygonum hastatum Th.f. ウナギヅル→ウナギヅル、
雀翹(こ) 椎再考

Amaranthus japonicus a ノヒユ→ノヒユ、別書
[*Amaranthus オランダゴロ*]

Spinacia oleracea Th.f. (e china introducta) ハウレンサ
ウ→ハウレンサウ、菠薐、蘭ムースコロイヂケスビ

ナギー [Moeskruidige spinagie]

Rhamnus sonogi Jap. ソノギ→ソノギ、妓女園木初贈
之、花戸巴棘

Dianthus caryophyllus ↓是「アニーリール [Anjeler]」
也

Arenaria nominotsuduri ノミノツヅリ→ノミノツヅ
リ、雀舌艸、茂本作アレナリア

Cerastium vulgatum ミノナグサ、○子ヅミノミ、↓
ミノナグサ、卷耳、一作 *Stellaria*、又一作茂本

Cerastium vulgatum、名疏従之

Rhamnus sonogi Jap. の例は、妓女園木(其扇、楠本滝)

から贈られたクロウメモドキ属の植物にソノギの和名を与
え、種名を *sonogi* としたことを明らかにしている。なお、

シーボルト草稿ではアシサイに *Hydrangea sonogi* の学名は
なく、つぎの改訂稿の段階でつけられている。

最後の二例にみえる「茂本」から、通詞目付茂伝之進の関
わる写本も参照されたことが分かる。茂伝之進は、父節右衛
門がツユンベリーの教えを受けたこともあり、植物を好み、
シーボルトの植物採集にもよく同行した人物である。

このほか、「林氏□卷□図アリ」とする例が二例ある。
林氏は、普通はハウトウインの『リンネの体系にもとづ、自
然誌』植物部 (M.Houttuyn, *Natuurlyke Historie of Uittoe-
rige Beschryving der Dieren, Planten en Mineralen, Volgens
het Samenstel van de Heer Linnaeus*. Amsterdam, 1773-
1783) をさすが、巻数と図番号が合わない。とくに該当する
図がないので、ここでは別書と思われるが、書名は未詳。大
きな謎である。

3 「日本植物目録」草稿と筆写本の成立過程

伊藤圭介・賀来佐之録「日本植物目録」はどのような分担
で写されたのであろうか。まず、学名の部分は圭介の筆跡で
はないようである。ほぼ同時期に書かれた『泰西本草名疏』
草稿(国立国会図書館所蔵)に書かれている学名の筆跡と比
べると、手慣れていてやや異なることがわかる。佐之の学名

についての筆跡については、他に佐之のラテン文の資料が見あたらないので、佐之とは断定でき兼ねる。

和名についても圭介の筆跡とは異なるようである。

いま、佐之の筆跡として、『泰西本草名疏』草稿の朱筆部分に注目すると、著しいクセのある字であることに気づく。マは、点画が斜め下に止めず右に払われ、またフ部と離れている。ウは、第二画の縦線が著しく上に突き出ている。サは、第三画の縦線が、左下に流れず、真つ直ぐ下に払われる。ナについても縦棒が左に傾かず、真つ直ぐ下に払われる。佐之はほぼ正字体で、筆勢が強い。これに対して、圭介はやや斜体で筆勢は相対的に弱い。

こうした特徴から、筆写本の和名は佐之の筆でもないと断言は得ない。

漢名や「圭按」や付記の部分は圭介の筆跡とみて間違いないものと思われる。

ここで、シーボルトの草稿の和名の筆跡について改めて検討してみると、さきに遠藤・加藤はすべて圭介の筆と推定したが、佐之の特徴ある筆跡と圭介の筆とが混在していることが判明する。草稿の最初の第十一科イバラモ科から第三四科までは佐之の筆跡、第三五科三小果科から圭介の筆跡にかわるが、第四九科回旋花科から佐之の筆跡にもどり、以降時々圭介と交替しながら最後は佐之の筆跡で終わっている。佐之

の筆跡は一一四〇例、圭介の筆跡は四五九例を数え、全体のほぼ2/3を佐之が、1/3を圭介が担当したことがわかる。遠藤・加藤の推定を訂正しておきたい。

このことから、伊藤圭介・賀来佐之録とは、筆写の段階での両者の関わりではなく、草稿の段階での両者の役割を表現したものと解釈しなければならない。なお、草稿には、圭介の担当部分に、「十二月十一日」から「正月十日」に至る日付が十一例書き込まれている。これは圭介の長崎遊学期に対応するので、草稿は文政十年十一月中旬から翌十一年一月中旬の二ヶ月間に作成されたものと推定できる。

したがって、シーボルト草稿「日本植物目録」は、文政十一年一月中旬以降につくられたはずである。このあと、圭介・佐之以外の人物によつて筆写本が作られたはずである。漢名や付記の部分はおそらくのちに圭介自身によつて書き入れられたものと思われる。しかも、「ミ、ナグサ *Cerastium vulgatum*. 名疏従之」の例は、『泰西本草名疏』に言及しているので、名古屋に帰ってから書き入れたものもあることを物語っている。

●圭介の長崎遊学 伊藤圭介（一八〇三〜一九〇一）は、文政十（一八二七）年九月九日に長崎に着き、その翌日から出島オランダ商館に通い、シーボルトに就いて植物学を学んだとされる。賀来飛霞の遺稿「錦窠伊藤老先生ノ履歴書⁵⁾」によ

れば、

九月九日長崎ニ着ス、直ニ吉雄常三翁ノ添書ヲ以テ大通
詞吉雄権之助翁ノ家ニ寄寓ス、シイボルト氏之ヲ聞テ大
ニ喜ビタリシト、ソノ翌日ヨリ塾頭岡研介氏ト相伴、
日々出嶋蘭館ニ赴キ博物ノ名実ヲ互ニ質正シ、和名ハ
一々之ヲ教ヘ、羅匈名ハソノ教示ヲ受タリ、ソノ通辨ハ
岡研介氏之ヲ為シタリ、其ノ傍ニ在テ同学厚志ノ友人豊
前ノ産賀来佐一郎詳ニ之ヲ筆記ス

圭介は大量の腊葉標本を携えており、それをもとに、シー
ボルトが同定してそのラテン名を教え、圭介がその和名を教
え、通訳は岡研介がおこない、傍らで友人の賀来佐之が筆記
した。圭介の植物の学習法は、多くの医学生が鳴滝塾で学ん
だ方式とはまったく異なっていたのである。

最初から目録が作られたのではなく、はじめの九月中旬か
ら十一月中旬までの二ヶ月間は腊葉標本の無作為な鑑定に費
やされたのであろう。

このとき鑑定された腊葉標本については、加藤偉重の調査
があり、オランダ国立植物標本館のシーボルト・コレクショ
ン標本中、ラベルの記載から、七五二点もが目録に該当する
ことが確認されている。

これらの鑑定標本を分類して目録を作成するのに、前述の
ように、次の十一月中旬から翌十一年一月中旬の二ヶ月間を

要したことが推定できる。

ついで、筆写本（いくつかの写本が複数）がこのあと作ら
れた筈である。遠藤・加藤は、『泰西本草名疏』や江馬活堂
の『失乙牡児鐸草木目録』との関連から、このときシーボル
トによつて学名部分に改訂がなされ「改訂日本植物目録」が
つくられたものと推定したが、そのような改訂はなされず、
すくなくとも伊藤圭介・賀来佐之録「日本植物目録」には、
シーボルトの直接の関与は認められない。

4 『泰西本草名疏』への影響

帰郷に際して、圭介はシーボルトから餞別としてツェンベ
リーの『日本植物誌』を贈られ、帰郷後にこれを抄訳して天
保元年（一八三〇）、卷一扉では文政十二年刊とされるが実際
の頒布は翌年であった）名古屋で自費出版したのが『泰西本
草名疏』とされる。

ツェンベリーの『日本植物誌』に記載される植物数は、従
来、目次に挙げられる植物数に拠っているが、目次には若干
の脱落や誤記があるので、本文で数えると八一五種となる。
うち、日本の植物名を記載していない例が二三五種あり、記
載してあつてもケンベルの時代の古い名や長崎方言などが多
く、日本名の不備が目立っていた。

圭介は、先行する西洋薬物書の翻訳の不備を憂えて西洋植物の説にもとづいて日本の植物を調べようとしていたので、シーボルトとの「日本植物目録」作成の体験から、『日本植物誌』の植物名を改訂して正確な目録を世に紹介することに大きな意義を見出したにちがいない。

『泰西本草名疏』は、『日本植物誌』の不備を反映して、『日本植物誌』にないツウンベリーの新説を補遺として加えた一六種を含めても、六八六種を収載しているにすぎない。『泰西本草名疏』では、シーボルト事件の影響で、名は秘して稚氏としているが、ツウンベリーの説を改訂したシーボルト説を一四七例載せている。

これらを伊藤圭介・賀来佐之録「日本植物目録」と比較すると、一四七例のうち一三三例が目録の内容とほぼ一致し、一四例が一致しない。九〇%という高い確度で一致しているので、シーボルト説はおもに目録に拠っていたものと理解できるが、それでは目録と一致しない一四例の説はどこから来たのであろうか。つぎにそれらを示しておく。

Todea hastate Th. イハオモダカ

^{ザカキ} 藜^{ザカキ} Chenopodium rubrum P.S.

Convallaria odora L.E. アマヅクロ

Convolvulus batata Linn. サツマイモ

Eleusine coracana P.S. シュウクビエ、ノラビエ

Illicium japonicum Sieb. シキミ

Leersia hispida Th. シノクメ

Osyris japonica Th. [Helwingia Wild.] ハナイカダ

Rajania hexaphylla Th. [Anona?] トキハアケビ野木瓜

* Zizyphus communis P.S. ナツメ

Queria trichotoma Th. アカネ

Sagittaria edulis Sieb. オモダカ

Forsythia suspense Vahl. レンゲウ

Uvularia cirrhosa Th. [Fritilaria?] ハルユリ、貝母

圭介は『泰西本草名疏』の草稿を賀来佐之とシーボルトに見せていた。草稿（国立国会図書館本）によれば、佐之はおもに和名や漢名について意見を書き入れ、シーボルトはおもに学名について書き入れている。右の目録に一致しない例は、*印をつけたナツメの例をのぞき、すべてこのシーボルトの書き入れと一致する。

このことから、『泰西本草名疏』は、シーボルト、圭介および佐之による「日本植物目録」の改訂作業の一つの成果とも位置づけることができよう。

なお、ナツメの例「Zizyphus communis P.S. ナツメ」は、『Zizyphus communis ナツメ』の部分が圭介の筆跡であり、命名者P.S.のみシーボルトの書き入れである。伊藤圭介・賀来佐之録「日本植物目録」には「Zizyphus? ナツメ」とあ

り、シーボルト草稿「日本植物目録」には「Zizyphus communis ナツメ」とある。たった一例ではあるが、圭介がシーボルト草稿「日本植物目録」により近い筆写本を見ていた可能性を暗示している。

5 シーボルトの賀来佐之あて一八二八年書簡

伊藤圭介・賀来佐之録「日本植物目録」には一葉の紙片（縦一五七㎢、横二〇一㎢）が二つ折にして挟みこまれている。シーボルト自筆オランダ文の賀来佐之（佐一郎）あて書簡である（次頁〈図2参照〉。洋紙の両面に書かれ、裏面の書簡末尾に一八二八年の年記があり、「日本植物目録」成立直後、シーボルト事件の直前の時期の内容でたいへん興味ぶかい。

なお、シーボルト書簡の洋紙には、ウォーターマークがあり、上半分が切断されていて下半分のみが見える（図3参照）。このマークはいわゆる‘Pro Patria（祖国のために）’と呼ばれるもので、円形の柵のなかにライオンと女王を描き、Pro Patriaの文字をライオンの上に配したものである。マークの下のW&CPKは、オランダの製紙業者W. & C. Pannekoekの略号。W.A. Churchill, *Watermarks in paper in the XVII and XVIII centuries*, Amsterdam, 1935, p. 17の図

1772年の製造年のあるこの業者の洋紙が記載されている。W&CPKの略号を有するPro Patria洋紙は、いまのところ他に所在を確認できていない。

いま、シーボルト書簡の翻字と訳を試みると、次のようになる。

Vriend Saitsi

Ik ben zeer bedroefd, dat ik myne brave Leerlingen niet meer kan ontrmoeden[sic] en vooral ook U. Ik hoor U wil in korten vertrekken, om die reden zend ik U deze brief. Gelieve wel zorg te dragen dat klaar komt de Lyst van gewassen, waarvan ik 14 boeken heb ontvangen. Waar zyn de anderen? waar is de Verklaring, waardoor ik kan alle Letteren verstan? Gelieve aan overbrenger alles te spreken en aan hem afgeven.

Ook verzoek Kruidkundig worden [sic] boek van I. Keiske verbeterd by zeker man te zenden, om my te schikken.

Ik zal alle beloofd medecynen en bataviaasche Gewassen aan een Seker vriend bewaren en U zal ongetwyfeld ontvangen — neem hier mynen grooten dank voor de veele moeite, die U heeft

Fraud Saksii.

Ik ben zeer bedroefd, dat ik mijne brave Leerlingen niet
 meer kan ontmoeten en vooral ook, H. Ik hoop
 H wil in horten vstreffen, om die reden zend
 ik H dese brief. Gelieve wel zorg te dragen dat
 alaar komt de Lyst van gewassen, waarvan ik H
 boeken heb ontraagen. Waar zijn de andern?
 waard g de Verklaring, waar door, ik heb alle
 Lektura rustaan? Gelieve naar overbringer aler
 te Spreken en naar hem afgeven.
 Ook verzoek, houdt u vudig worden boek van J. Kijfte
 vubekend, by rek. naar te zenden, om mij te schikken.
 Ik zal alle belooft medegeuen en balavieasche

Gewassen aan een Sohu vriend Bewaren en H
 zal ongetw yfeld ontraagen - neem hem mijne
 grooten dank voor de vnde moeite, die H heeft
 sedert gedaan; was vnschier dat ik nooit zal
 vergeen en zoos ras ik gelukkeghk heb myn van
 land vudigvonder, zal ik zoos lang ik ook mag
 leven altho voor mijne brave en oprechte Leer
 lingen. Zorg dragen en van Holland, hanne kiste
 tot velschappen bevorduen.

Euwig H oprechte
 Munt. Hoffmeyer

Valich niet bevoor myn vnt, raan
 neen zijn atgelopen, ik verzoek nu
 vricedelyk.

1818.

図2 シーボルトの賀来佐之あて書簡（神田外語大学附属図書館所蔵）

sedert gedaan, wees versekerd dat ik nooit zal
vergeten en zoo ras ik gelukkiglyk heb myn vader,
land wedergevonden, zal ik zoo lang ik ook mag
leven altoos voor myne brave en opregte leer.,
lingen zorg dragen en van Holland hunne Liefde
tot wetenschappen bevorderen.



図3 シーボルト書簡 ウォーターマーク

Euwig U opregte
meester Von Siebold
Vertrek niet bevoorfsicj myne werkzzaam
heden zyn afgelopen. ik verzoek zeer
vriendelyk. 1828.

友人サイチ（賀来佐之）へ

立派な教え子たち、とりわけ貴殿にももう会えなくなるのは悲しい限りです。貴殿がまもなく出発すると聞きましたので、この手紙を送ります。植物目録はノート一四冊分を受け取りましたが、どうか努めて目録を完成させるようにして下さい。他のノートはどこにあるのでしょうか。私がすべての文字（漢字）を理解できるようにした解説はどこにありますか。遣いの者に委細を話して、彼に渡して下さい。また、イ・ケイスケ（伊藤圭介）の植物学辞彙の改訂稿を私の手に渡るよう、確かな人に送って下さい。約束した薬とバタヴィアの植物は誰か友人に託しますので、貴殿は間違いなく受け取れるはずです。

これまで大変お世話になり、誠にありがたく感謝致します。（貴殿のことは）決して忘れませんのでご安心下さい。幸いにも祖国を再び見ることができたら、すぐに、そして命のある限り、立派で忠実な教え子たちのことを思い、オラン

ダの地から、学問に対する彼らの情熱を促進するようにします。

永遠に貴殿の誠実なる師

一八二八年

フォン・シーボルト

深い友情からのお願いです。私の仕事を終える前に出発しないように。

ここで改めて「サイチ（佐一）」こと賀来佐之について記しておきたい。後年島原藩医として薬園を主宰するなど活躍し、島原の「国の宝」と称えられた賀来佐之（かくすけゆき、通称佐一郎、一七九九～一八五七）は、小野蘭山に本草学を学んだ賀来有軒の息子で、豊後の高田村（島原藩の領地）生まれ。早くに両親を亡くし、十七歳下の異母弟飛霞（ひか）とともに日出の帆足万里に訓育された。そして文政九（一八二六）年から長崎に遊学して吉雄権之助、そしてシーボルトに師事した。弟飛霞によれば「居四年」、帰郷して蘭方を唱え、評判を聞いて多くの患者が集まったといわれる。佐之がシーボルトに学んだ医学面での成果は、「失乙字児杜方府」や、シーボルト・イペイ・ゴルテル等の処方を取捨選択、自説としてまとめた「続常用方」（文政十三年序）に示されている。

佐之はまた、ドイツの植物学者ウィルデノウの『植物学入門』蘭訳本（シーボルトが所蔵していた可能性あり）を長崎滞在中に入手、その後翻訳して『本草新書』（前欠、尾欠で七冊現存）とした⁶。

長崎遊学中圭介の親しい協力者であった佐之は、圭介の帰郷後も長崎に残り、シーボルトの植物研究を手伝っていた。「植物目録はノート一四冊分を受け取りましたが、どうか努めて目録を完成させるようにして下さい。」とは、シーボルト草稿「日本植物目録」ではあり得ず、その後の改訂作業をさすものと思われる。

また、「イ・ケイスケ」こと伊藤圭介の「植物学辞彙の改訂稿を私の手に渡るよう、確かな人に送って下さい。」とは、後述するように『泰西本草名疏』校訂本のことである。

佐之は、飛霞の言葉を用いれば一八二九年まで長崎に滞在したことになるが、シーボルト事件に関係した形跡はない。それならばこの書簡は「一八二八年」のいつ頃書かれたのか。圭介が去った三月以降、本来は秋に離日のはずで（出帆は十月一日と予定されていた）、帰国準備（研究成果の荷造り）にシーボルトが焦っていた頃がまず考えられる。綴りがドイツ語訛り？になったオランダ語は慌てた証拠かもしれないし、「私の仕事を終える前に出発しないように」と圧力をかけて門人佐之をせき立てているところも、時間的な余裕

のなさが感じられる。シーボルトは、自分の離日を前提に「サイチ」のそれまでの協力に礼を述べ、別れの挨拶をしている。九月十七日（旧暦の八月九日）夜半からの暴風雨に端を発するシーボルト事件以前の平穏な時期に書かれたのであろうか。

今回のこの新出書簡は、これまでシーボルトの研究協力者として（シーボルトにも）名を挙げられることがほとんど無かった賀来佐之が、「友人サイチ」と呼ばれるほど親密であったこと、オランダ語も植物もわかる門人として、彼の植物研究を支える存在であったことを、初めて明らかにしてくれた。

6 圭介の佐之宛書簡二通

実は、この蘭文書簡の内容とも「日本植物目錄」成立事情とも関連する圭介の佐之宛て書簡が二通、大分県立歴史博物館寄託「賀来飛霞関係資料」中に存在する。一通はすでに『愛知県史』資料編に掲載され、本稿でも引用しているが、もう一通は、ごく最近になってその内容が判明したものである。

「加来佐一郎様 伊藤圭介 用書」の端裏書きを持ち、「十月十日之華墨昨夜相達拝読仕候」で始まる一通（整理番号ア

95）には、次のように記されている。（翻刻に当たり、適宜読点を付す等した。）

一、先達而追々奉願候草木種類名之書、早速御写サセ被下、今便相達申候、千万難有奉存候、至而読難ク、且羅甸語故、一向写ニモ面白カラヌモノ、早速御世話被下故出来、右御礼万々奉拝謝候（中略）

一、又御礼申上候は、拙著之本草名疏稟本、御校訂之義奉願候処、早速御承引、御深切ニ々御教諭被下、万々難有奉存候、且先生へも御見せ、一々校訂出来、誠ニ僕ノ一大幸也、欣躍欣躍、如高論、原書ノ和名は甚謬誤夥多可申奉存候、先生へ御序ニ小生ノケシカラヌ歡ビ申候事を御話シ、厚ク御礼御伝声之事奉願上候、凡例杯之義も一々仔細ニ教諭、誠ニ益を得申候、呉々も小生ノミ子ールへ御礼申上候位ニ深く、御礼御伝可被下候、御願上候、原書作者之肖像も御贈り被下、此礼も千々万々奉拝謝候、必巻初二附刻可仕相娯（以下後欠）

尾欠で日付は明記されていないが、内容から圭介が長崎を発った後、『泰西本草名疏』刊行準備中の冬、十一月下旬から末頃の書簡と考えられる。文政十一年（一八二八）の十月十日（西暦十一月十六日）に賀来佐之はまだ長崎に居たので

ある。

これによれば佐之は、頼まれていた「草木種類名之書」の写本を、ラテン語の厄介なものであるにもかかわらず早速作らせて圭介に送ったので、圭介は最大級の感謝を捧げている。

次に「本草名疏」の稿本校訂を頼まれた佐之が、親切に朱筆を入れ、先生（シーボルト）にも見せたので校訂ができた、これは「僕ノ一大幸」だと圭介は大喜びである。原書の和名に誤りが多いとの指摘も受け、「本草名疏」原作者（ツェンベリー）の肖像画も贈ってもらった。「千々難有」「万々奉拝謝」「万々難有」「千々万々奉拝謝」と最上級の謝辞を幾度も繰り返していることから、圭介が佐之の学識をいかに高く評価し信頼していたか、どれほど深く感謝していたかが察せられる。また「ミ子ール」（オランダ語で貴殿の意、ここでは佐之をさす）への謝辞と同じくらい深くシーボルト先生へも御礼を伝えて欲しいと言っているが、この手紙が佐之のもとに届くのは一ヶ月以上後である。西暦では一八二九年二月、佐之がもしもまだ長崎にいたとしても、シーボルトは幽閉され、尋問されている時なので、圭介の感謝の気持ちも伝えられたかどうかは定かでない。

さきの蘭文書簡に「イ・ケイスケの植物学辞彙」改訂稿を私のもとに、とあるのはこの『泰西本草名疏』稿本に違いな

く、「草木種類名之書」の写本も、佐之の尽力で十月十日以前に出来上がっていたことがこの書簡からわかる。

一八二八年十月に離日予定であったシーボルトは滞在延長を余儀なくされたが、同年夏か秋に一度は長崎を発とうとしていた佐之も、十月十日にまだ長崎に居たことがわかる。

いったいいつまで滞在したのか。圭介の長崎遊学時、吉雄権之助の塾で同窓の学友であった飯沼良吉の圭介宛書簡がヒントを与えてくれる。文政十一年十二月二十八日に長崎を発った良吉によれば、「崎陽騒動一件（シーボルト事件）」も、しばらくは穏やかで十二月二十三、二十四日頃から俄にやかましくなったという。そして、佐之からの手紙がこの一件をきつと詳しく圭介に伝えるだろう、と。

九月十七日（旧暦八月九日）深夜から明朝の暴風雨、コルネリス・ハウトマン号の座礁から一気に展開するシーボルト事件も、最初の数ヶ月は（長崎では）動きがなく、年末になつて通詞や門人の町預け・画家登与助の入牢など、俄に慌ただしくなった。その経緯を、佐之が長崎で見聞きしていたとすれば、一件に関わりなく文政十一年末まで長崎に滞在していた可能性が高くなる。賀来飛霞が「居四年」といったのもあながち大袈裟とはいえないのである。

伊藤圭介・賀来佐之録「日本植物目録」は、裏表紙見返し

の示しているように、天保二年五月十一日付で圭介から佐之に贈られた筆写本であった。さらに、表表紙返返しに、圭介の朱筆で「此写本追々校訂仕候得共、猶誤字多シ。名疏等二而相分り申候分ハ御訂正可被下候」とある。

この写本は実際にはそれより二日後に送られている。写本についての興味深い記事があるもう一通が、このときの佐之あての圭介書簡（天保二年五月十三日付）である。

一、権氏草木種類名之原書人ニ御貸シ之処、終ニ返し不申候由、右原書はミネール歟余之手ノ外ハ佗人ニ属スベカラス、必強ク御催促之上、御落手候ハ、深秘不可棄人、別本御写置御貸可被成候、其故は右原本ナクテハ文字不相分候処余程有之候、小生モ右原書返り申候へハ一度拝借仕度候、文字難字之処校正仕度候、特小生ノミへハ重而御貸可被下候、右書江戸ニモ伝写流布ノヨシ

一、右書写サセ可差上被仰下、然処幣藩蘭学生無之、筆耕之者無御座、無拠小生写申候、然処多忙中匆卒揮毫故文字難相分、因而ソノ本ヲ小生扣本ニ仕、先達而崎陽御写サセ之本進上仕候、御落手可被下候、マダ此本ガ文字相分り申候分也、併誤字甚多追々校正仕候得共、猶余リモ有之候哉、御推読可被下候、右ノ訳故筆料ニは及不申候⁸

「権氏草木種類名」の原書が佐之のところにあつたが、他人に貸しているうちに戻らなくなつたので、圭介のところにあつた写本を貸してほしいと依頼されたのに対して、圭介は原書は「ミネール」＝佐之が自分の手のほかに属してはならないもので、必ず取り戻して深く秘し他人に見せるべきではないと戒め、圭介が持っていた長崎で佐之が写させた写本を佐之に贈呈しようと云っている。

「権氏草木種類名」の原書とはいかなる書であつたらうか。この書簡の内容から、シーボルト・賀来佐之・伊藤圭介筆「日本植物目録」草稿そのものではなく、それを佐之が写した筆写本であつたことになり、さらに伊藤圭介・賀来佐之録「日本植物目録」は、佐之が長崎で写本を作らせ、圭介に贈つた「草木種類名之書」が、再度佐之に贈られたものということになる。とすれば、「此写本追々校訂仕候得共、猶誤字多シ。名疏等二而相分り申候分ハ御訂正可被下候」は明快に理解できるのである。

以上のことから、伊藤圭介・賀来佐之録「日本植物目録」は重筆写本ということになる。しかし、この重筆写本とシーボルトの助けを借りて、「日本植物目録」の改訂の一環として圭介は『泰西本草名疏』を執筆することができた。

7 まとめにかえて——「茂本」シーボルト序文の考察

第2節の末尾で指摘したように、伊藤圭介・賀来佐之録「日本植物目録」筆写本には、二例だけ「茂本」との校異を書き加えた箇所が見られる。この「茂本」すなわち通詞目付茂伝之進に関わる写本は伝存不明であるが、これにシーボルトが寄せた序文を伊藤圭介が筆写しているので、その内容を通して、シーボルトが滞日中に「日本植物目録」をどのような位置づけていたか、シーボルトと茂伝之進の関係、そしてシーボルトの賀来佐之に対する態度を考察しよう。

問題のシーボルト序文は国立国会図書館伊藤文庫所蔵の「シーボルトへ所贈腊葉目録」（請求番号、別冊174）の巻頭に、「茂氏本^⑤序」と注記して転写されている蘭文である。^⑤「シーボルトへ所贈腊葉目録」の本文自体は伊藤圭介が巻末に貼付した覚え書き（明治四未四月八日錦窠老人記於大学南校）によれば、圭介がシーボルトに赤表紙を付けて腊葉帳七冊ばかりを贈った際、これに添えて渡した腊葉の和名目録であり、シーボルトが圭介の求めに応じて、空欄に学名、蘭名を書き加えて圭介に返却してきたものである。和名目録はイロハ順に一番から二百七十二番「ス、カゼリ」までで終わっており、その次にはシーボルトの蘭文返書が転写されてい

る。この返書でシーボルトはリンネとツェンベリーによって属名を付けたが、種名は分からないので、属名のあとに和名を付けたと断り、日本植物の概観を得たいのでできるだけ沢山の腊葉を送るよう要請している。この蘭文返書の写しは解読したい部分も多く、圭介がそれほど蘭文に慣れていない長崎へ出発する以前のものと思われる。

問題のシーボルト序文を左記に翻刻し、和訳を添える。

茂氏本^⑤序

Aan de veele en gewigtige bijdragen der geleerde Heeren Katsuragawa Hokken, Woedagawa Joan, Mizutani Sakerok, Ito Keske, O. Sonsin, O. Saitiro, Koo Riosai, m. Zunzoo, T. Keisak en eenige andere kruidkundige had ik te ver danken de in dit Boek aangehaalde Japansche plantnaam met de gewassen zelve te kunnen vergelijken en deze grootsgedeelte kruidkundig te bepalen in zoo verre dit hier op Japan zelve doenlijk was: hopende in Europa de nadere opheldering nog bij te voegen.

Voornamelijk heeft mij Ito Keiske, met die ik alle vorgekondene gewassen herzien heb, een zeer behulpzame hand gebonden en zijne verdiensten verdienen het grootste lot.

deze planten leest leg ik in de handen mijner vrienden
denozin, een vriend des beroemden hoogleraar C.P.
Thunberg, tot eenen bewijs mijnes danks voor de
veelvuldige moeite, die zich dezelve ter begunstiging mijner
navorschingen in de natuur wetenschappen in dit Land
gedurende mijnes verblijfs dahier heeft gegeven.

Dezima den 18de Juny 1828

dr von Siebold

【和訳】

学識あるカツラガワ・ホケン（桂川甫賢）、ウダガワ・ヨ
アン（宇田川榕菴）、ミズタニ・スケロク（水谷助六）、イ
ト・ケイスケ（伊藤圭介）、O. ソンシン（大河内存真）、O.
「ママ」サイチロ（賀来佐一郎）、コー・リヨサイ（高良斎）、
m. ジュンゾー（美馬順三）、T. 「ママ」ケイサク（二宮敬作）
の諸氏、その他の本草家から寄せられた多くの強力な寄与に
対して、感謝しなければならぬ。おかげで、本書中に付け
られた和名と植物自体を比定することができるようになり、
その大部分について、この日本国内で可能なかぎり植物学的
に確定できた。さらなる解決はヨーロッパで付け加えること
を希望する。

とりわけ、私とともに既に知られた植物を再検討したイ

ト・ケイスケ（伊藤圭介）は私に大変有益な助手となった。
彼の貢献は特大である。

かの高名なC. P. ツェンペリー教授の友であり、私の友人
であるデンノジン（伝之進）は私の滞在中、この国における
私の自然誌研究を支援するために、幾たびとなく心を尽くし
てくれた。その心遣いに対する私の感謝の証しとして、彼の
手にこの植物目録を渡すものである。

出島 一八二八年六月十八日

ドクター フォン・シーボルト

シーボルトの賀来佐之あて書簡の出現によって、ルール大
学ポーフム、東アジア学部付属図書室所蔵「日本植物目録」
草稿の成立にあたっての佐之の役割が改めて注目された。こ
の写本の今回の調査により、佐之が腊葉標本や「日本植物目
録」草稿の和名の筆記役をしており、とくに「日本植物目
録」草稿の和名の2/3まで記載したなど、重要な役割を果
たしていたことを確認できた。

このように「日本植物目録」草稿の成立史において、賀来
佐之は伊藤圭介に勝るとも劣らない重要な貢献をしているに
もかわらず、このシーボルト序文において、賀来佐之（佐
一郎）は、「O. 「ママ」サイチロ」と姓も正確に記されず、
しかるべき評価が与えられていない。

シーボルトは序文で多くの協力した日本人学者の名を列挙することで、「日本植物目録」が日本滞在中の植物研究の集大成であることを示唆し、とりわけ伊藤圭介の貢献を強調している。賀来佐之は名前を挙げられた協力者九名のうち、桂川甫賢、宇田川榕菴、水谷助六、伊藤圭介、大河内存真について六番目に置かれているにすぎない。

シーボルトの賀来佐之宛て書簡の眼目は「日本植物目録」草稿の改訂作業完成を佐之に督促することにあつた。「一八二八年」と年記のみで、月日が不明であるが、「茂本」のシーボルト序文が同年六月十八日（文政十一年五月七日）付けであることから、この時点で佐之と圭介が和名を書き入れた草稿は完成しており、シーボルトはその草稿を茂伝之進に写させ、序文を付けて与えたと思われる。佐之による草稿の改訂作業開始はこれ以降のことであろう。

圭介が天保二年五月十三日付け書簡で、佐之にミネール（貴殿）歟余之手ノ外ハ侘人ニ属スベカラス」と忠告した「権氏草木種類名之原書」は佐之が「日本植物目録」草稿から作成した写本である。これ以外に佐之のあざかり知らぬうちに、「茂本」が作成され、やがて流布し、佐之と圭介がその存在を知るところとなつたはずである。

シーボルトは序文末尾で、自分の日本滞在中の自然誌研究への支援に対する感謝の証しとして茂伝之進に目録を贈ると

記しているが、その日本語研究についても伝之進の協力を得ていた。伝之進の手元には、文化初年商館長ヘンドリック・ドゥーフの蘭日辞典編纂に協力した関係で、ドゥーフ自筆の蘭日辞典草稿があつた。シーボルトはその草稿を伝之進から借り受けて作成した写本や他のルートで入手した改訂稿の写本をもとに、帰国後オランダで自分の編纂物であるかの如く蘭日辞典出版を企画し、ドゥーフから剽窃と告発された。佐之、圭介にとつて労作とも言える「日本植物目録」草稿の写本が伝之進に贈られたのも、そのようなシーボルトの性格がしからしめるものであつたといえよう。

シーボルトが序文末尾で伝之進を「かの高名なC. P. ツェンペリー教授の友」と呼ぶのは、伝之進の父茂節右衛門がツェンペリー滞日中に、博物学を教えられツェンペリーから修業証書を与えられていたことを利用して、シーボルトが伝之進のツェンペリー宛て蘭文書簡の添え状として、伝之進を紹介しつつ、ツェンペリーに日本植物研究上の交流を求めるドイツ語書簡を一八二四年十二月に出島から送ったことと関係がある。伝之進の蘭文書簡はツェンペリーの健在をシーボルトから知らされたこと、父節右衛門の最期の模様と母の死、父宛ての修業証書をシーボルトに見せたことなどを伝えている。伝之進は一八二五年にはツェンペリーから書物を受け取り、蘭文の礼状を送っている¹¹⁾。自分が仲介役となつたこ

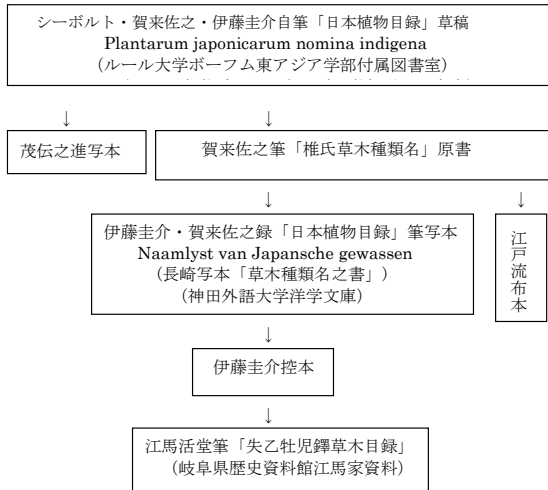
うした伝之進とツェンベリーの手紙のやりとりを踏まえて、シーボルトは伝之進を敢えて「ツェンベリー教授の友」と呼び、伝之進の支援に報いようとしたのであろう。

以上のように、一八二八年六月十八日付けの「茂本」シーボルト序文では、「日本植物目録」への賀来佐之の貢献は舞台裏へ押しやられ、伊藤圭介が脚光を浴びている。一方で、「日本植物目録」草稿の改訂作業は、シーボルト事件によってシーボルトが出島に幽閉される直前まで、営々たる佐之の助力によって進むことになる。そしてこのことが、シーボルトの日本植物研究における最も実りある成果となるのである。

シーボルトが佐之宛て書簡の末尾に表明した帰国後の学術的支援の約束は、シーボルト事件による国外追放処分によって果たされることはなかった。シーボルトが佐之の貢献に対する謝意を公にすることはついになかったようである。

最後に、これまで考察したシーボルト編「日本植物目録」関連写本の系統図を下に掲げよう。図中、所蔵先を示さない写本は伝存不明である。

シーボルト編「日本植物目録」写本系統図



註

- (1) 町田明広『洋学文庫』プロジェクトについて』『神田外語大学日本研究所紀要』第7号九四～九五参照。
- (2) 遠藤正治・加藤儔重〔解説五〕シーボルト・伊藤圭介『日本植物目録』および『失乙牡児鐸草木目録』の紹介、『近世植物・動物・鉱物図譜集成』第四一巻、伊藤圭介稿植物図説雑纂（一六巻）、科学書院、二〇一五年。
- (3) 加藤儔重・遠藤正治・幸田正孝・松田清「宇田川榕菴『百綱譜』の研究」『杏雨書屋所蔵宇田川榕菴植物学資料の研究』、武田科学振興財団杏雨書屋、二〇一四年、三七一～五三〇頁。
- (4) 宇田川榕菴述「百綱略譜」前注(3)『杏雨書屋所蔵宇田川榕菴植物学資料の研究』、五二〇～五三〇頁参照。
- (5) 前注(2) 遠藤正治・加藤儔重〔解説五〕シーボルト・伊藤圭介『日本植物目録』および『失乙牡児鐸草木目録』の紹介、二七～二二四頁参照。
- (6) 鳥井裕美子「賀来佐之研究序説―洋学の展開と近代化の一考察―」、中村質編『開国と近代化』、吉川弘文館、一九九七年、五〇～七九頁参照。
- (7) 『愛知県史』資料編20 学芸、二〇一二年、一四一～一四二頁。なお、吉雄権之助は大通詞ではなく小通詞が正しい。
- (8) 伊藤圭介の賀来佐之宛て（天保二年）五月十三日付書簡、『愛知県史』資料編20 学芸、二〇一二年、一五五頁参照。
引用に当たり、大分県立歴史博物館寄託「賀来飛霞関係資料」所収の原文書と照合して、一部を訂正した。
- (9) 以下、国立国会図書館デジタルコレクションに公開の伊藤圭介「シーボルトへ所贈腊葉目録」（寄別1147）画像 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2542957> に449。
- (10) 松田清『洋学の書誌的研究』臨川書店、一九九八年、八八～九〇頁参照。
- (11) Marie-Christine Skuncke, *Carl Peter Thunberg, Botanist and Physician. Swedish Collegium for Advanced Study*, 2014. pp. 277-278, 282.

*

本稿作成にあたり、大分県立歴史博物館主任学芸員の平川毅氏には、資料閲覧等で大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

1541	-----baccata Th.	カイドウ、海棠
1542	----- (J.K.v.r.)β china	シダレカイドウ、垂絲海棠
1543	-----inunasi J.K.	イヌナシ、鹿梨
1544	Cydonia sinensis Lan.china	クハリン、模稜
1545	-----β	アンラクハ
1546	-----cydonia α	マルメロ、楡梲
1547	-----boke Sieb.	カラダ子ボケ、漢種木瓜
1548	-----japonica Th.	ボケ
1549	-----β erilis	クサボケ、楡子
1550	Sorbus nanakamado	ナハカマド
1551	-----japonica Sieb.	ウラジロノキ
1552	-----japanasi M.Z.	ヤマナシ、棠梨
1553	Aronia japonica Sieb.	ザイフリ、棠棣
1554	-----?	?
1555	Crataegus glabra Th.	カナメ
1556	-----? villosa Th.	ハマモツコク、指甲花
1557	-----laevis Th.	カマツカ
1558	-----kamatsbusi	カマツブシ
1559	-----osansasi	オホサンザシ、羊杓子
1560	-----sansasi	サンザシ、山楂、林氏七卷十七図アリ
1561	Amygdalus persica	モハ、桃
1562	Cerasus	ヤマザクラ、櫻
1563	-----jtosakura	イトザクラ
1564	-----donarium Sieb.	サクラ、ヒガンザクラ
1565	-----incisa Th.(fakone)	ハコ子ノママザクラ
1566	-----mamesakura J.K.	ママザクラ
1567	Armeniaca vulgaris	アンス、杏
1568	-----mume	ムメ、梅
1569	Prunus domestica	スモハ、李
1570	-----japonica Th.	ニハムメ、郁李
1571	-----tomentosa Th.	ユスラ
1572	Prunus elliptica Th.	ウワミズザクラ
1573	-----hainoki (fol.percaunatus)	ハイノキ
1574	-----? tadeki	タデキ
1575	Laurocerasus japonica Sieb. (?)	バクチノキ
1576	Mespilus japonica Th.	ヒワ、枇杷
1577	Kerria japonica DC.	ヤマブキ、棣棠
1578	-----tetrapetala Sieb.(e china)	シロヤナギ
1579	Begonia grandis Th.fl.	シウカイトウ、秋海棠

1488	———tsjoosjun	チャウシユン、月季花
1489	———iwara (pedunculis hyperidis)	アカノイバラ
1490	———kinibara floribus luteoroecis	キンイハラ
1491	———hollandaibara	ワランダイバラ、縹絲花
1492	Sanguisorba media P.S.(var.angustifolia)	ワレモカウ、地榆
1493	———media (foliis latioribus floribus purpureis)	ムラサキ
1494	———media (folibus albris)	シロノツレモカウ
1495	———jezocais Sieb.	トウウチサウ、地榆一種
1496	———karaitosoo	カライトサウ
1497	———mauritanica P.S. (?)	ビンプル子ルラ、胡蒼耳
1498	Agrimonia eupatoria	キンミツヒキ、龍芽艸
1499	———M.Z.lit,r	
1500	Potentilla (foliis quinatis)	ヲヘビイチゴ
1501	———kawarasaiko	カワラザイコ、委陵菜
1502	———nivea P.S.	ブクリヤウサウ
1503	———grandiflora ?	キシムシロ
1504	———rooge J.K.	ロウゲ、狼牙
1505	———iwakinbai M.Z.	イワキンバイ
1506	———mitsubasaiko	ミツハサイコ
1507	Geum japonicum Th.fl.	ダイコンサウ、水楊梅
1508	Rubus palmatus Th.fl.	キイチゴ、懸鈎子
1509	———koganeitsiko H.M.Z. i	コガ子イチゴ
1510	———palmatus β	アワイチゴ
1511	———γ	ニカイチゴ
1512	———jdaeus ? Th.fl.	クサイチゴ、蓬蘽
1513	———orientalis Th.fl.?	ハスイチゴ、フユイチゴ、寒莓
1514	———occidentalis Th.fl.	ナワシロイチゴ、罌田藤
1515	———moluccanus Th.fl.	ハルイチゴ
1516	———β M.Z.	ナワシロイチゴ
1517	———(sponte in higo)	ナワシロイチゴノ一種
1518	———ratefolius	トキンイハラ
1519	———palmatus var.	キイチゴノ一種
1520	———momisitsiko	モミジイチゴ
1521	———trifidus Th.fl.	ガジイチゴ 毛アルモノ、チャウセンイチゴ
1522	———incisus Th.	トウイチゴ?、カジイチゴ
1523	———(periotis crmatis)	
1524	———gojooitsiko	ゴヨウイチゴ
1525	———(e china) totokuri Jap.	トツクリイチゴ
1526	———	トツクリイチゴノ類
1527	———kusoitsigo? M.Z. k	イチゴ
1528	———hoorokuitsigo M.Z.l	ホウロクイチゴ
1529	Spiraea? kogomeutsugi	コメウツギ
1530	——— flore pleno	ハゼバナシジミ、笑靨花
1531	———chamaedrifolia Th.fl.	イワカサ、麻葉繡毬
1532	Spiraea thunbergii Sieb.	ユキヤナギ、珍珠花
1533	———palmata Th. Var. rub.	クサシモツケ
1534	——— floribus niveris	白ナツユキ
1535	———japonica Sieb.	コデマリ、麻葉繡毬
1536	———callosa Th.	シモツケ
1537	———maruba	マルバノシモツケ
1538	———? misuahoiniki	ミズアライノキ
1539	Pyrus communis	ナシ、梨
1540	———malus (e china)	リンゴ、林檎

1443	----- japonica Sieb.	マツモトサウ
1444	----- coronata Th.	ガンビ
1445	----- fusinguro J.K.	フシクロ
1446	----- nanbanhakobe J.K.	ナンバンハコベ
1447	Stellaria undulata Th.fl.	ハコベ
1448	Alsine media	同上
1449	Arenaria nominotsuduri	ノミノツマリ
1450	----- nominofusuma	ノミノフスマ
1451	Cerastium vulgatum	ミハナグサ、虎児、一作Stellaria, 又一作茂本Cerastium vulgatum, 名疏従之
1452	Cerastium ?	
1453	Spergula tsumegusa Jap.①Arenariaニ作	ツメクサ、漆姑艸
1454	Linum matsubanadesiko	マツバナデシコ、林氏図アリ、Linumトアリ
1455	Sterculia tomentosa Th.	アラギリ、梧桐
(93 Portulacaceae)		(第93科 スペリヒユ科)
(94 Aizoaceae)		(第94科 ツルナ科)
(95 XCX Cereae)		(第95科 サボテン科)
1456	Ribes parasilica Sieb.	ヤシヤビシヤク、蔦
1457	----- jabusannzasi M.Z.	ヤブサンザシ
1458	----- suguri M.Z.	スグリ
1459	Myrtus laevis Th.	クロキ
1460	Philadelphus coronarius [L.]	サツマウツキ
1461	Deutsia scabra Th.	ウツギ
1462	----- laevis Sieb.	山生ウツギ、濃疏
1463	----- crenata Sieb.	ウツギ
(96 Loasaceae)		(第96科 ロアサ科)
(97 Myrtaceae)		(第97科 フトモモ科)
(98 Sedeae)		(第98科 ベンケイソウ科)
1464	Sedum telephium P.S.	ベンケイサウ、景天
1465	----- kirinsoo Jap.	キリンカク、費菜
1466	----- misebaja Sieb.	ミセハヤサウ、馬歯莧葉景天
1467	----- spinosum [Thunb.]	ツメレンゲ、昨葉何艸
1468	----- anacampseros [L.]	レンゲサウ、同一種
1469	----- japonicum Sieb.	ミヅウルシ
1470	----- mannensoo?	マン子ンサウ、佛甲艸
1471	----- lineare?	ツマキリマン子ンサウ、同一種
1472	----- ?	
1473	----- collesyenda	マルバノマン子ンサウ、同一種
(99 XCIX Melastomeae)		(第99科 ノボタン科)
1474	Melastoma nobotan Jap.	ノボタン
1475	----- (e liukiu)	ノボタンノ類
1476	Rhexia hasikan (e liukiu)	ハシカン
1477	Osbeckia sinensis (in japonica)	
1478	Metrosideros (e liukiu)	ツトモ、ホトウ
(100 Rosaceae)		(第100科 バラ科)
1479	Rosa viola Sieb. (e china)	モツコウクワ
1480	----- (e china)	サンシヤウイバラ
1481	----- natsutsubaki Jap.	ナツツバキ、金櫻子
1482	----- rugosa Th.fl.	ハマナス、玫瑰
1483	----- multiflora Th.fl.	ノイバラ、野薔薇
1484	----- (arkond)	ツルタチノイハラ
1485	----- β var.	ノイハラ
1486	----- aus tesima	ノイハラ
1487	----- semperflorens	シキサキイハラ

1396	—————β	フユアフヒ、冬葵
1397	<i>Hibiscus mutabilis</i> Th.fl.	フヨウ、芙蓉
1398	—————manihot Th.fl.	トロハ、黄蜀葵
1399	—————syriacus Th.fl.	ムクゲ、木槿
1400	—————hamaboo Sieb.	ハマボウ、黄槿
1401	—————butsooke	ブツサウケ、扶桑
1402	—————?	
1403	<i>Gossypium herbaceum</i> Th.fl.	ワタ、草綿
1404	<i>Gossypium (floribus)</i>	ムラサキワタ
1405	—————(luna florescente)tja-wata	チャワタ
1406	<i>Abutilon kiriasa</i> J.K.	キリアサ
1407	<i>Thea chinensis</i> DC. viridis	チャ、茶
1408	—————β bohoea DC.	トウチャ
1409	<i>Camellia sasankwa</i>	サバクワ、茶梅
1410	—————(tsubaki) japonica	ツバキ、山茶
1411	—————lanceolata Sieb.	ホソバツギ
1412	—————dentata Sieb.	センリヤウツバキ
1413	<i>Pentapetes phoenicea</i> Th.fl.	ゴジクハ、夜落金錢
1414	—————? Itsibi	イチヒ
1415	<i>Urena morifolia</i> [DC.]	ボンデンクハ
1416	<i>Portulacca oleracea</i> P.S.	スベリヒユ、馬齒莧
(86 Byttneriaceae)		(第86科 アオギリ科)
(87 Ochnaceae)		(第87科 オクナ科)
(88 Dilleniaceae)		(第88科 ビワモドキ科)
(89 LXXXIX Tiliaceae)		(第89科 シナノキ科)
1417	<i>Tilia bodaisju</i> Jap.	ボダイジュ、菩提樹
1418	—————parviflora P.S.	シナノキ、同一種
1419	<i>Elaeocarpus japonica</i> Sieb.	ツクノキ、胆八樹
1420	—————zjumi J.K.	シユミ
1421	<i>Punica granatum</i> Th.fl.sakuro	サクロ、石榴
(90 Cistaceae)		(第90科 ハンニチバナ科)
(91 Jonideae)		(第91科 スミレ科)
1422	<i>Viola palmata</i> DC.	エソスミレ、胡董艸
1423	—————(flor.floribus)	
1424	—————odorata DC.	コマノツメ
1425	<i>Viola japonica</i> DC.	スミレ、紫花地丁
1426	—————patrinii DC.	スミレ
1427	—————β	スミレ
1428	—————γ	スミレ
1429	—————canina japonica DC.	
1430	—————tsubosumire	ツボスミレ、匙頭菜
1431	—————mijamasumire J.K.	ミヤマスミレ
1432	—————(fol.braciolis folium albis)	タチスミレ
1433	—————folis uniformibus flor. var. M.Z.	キスミレ
1434	—————akisumire M.L. lin	アキスミレ
(92 XCII Carvophyleae)		(第92科 ナデシコ科)
1435	<i>Dianthus (caltis in hort)</i>	ナデシコ、瞿麦
1436	—————superbus	ノナデシコ
1437	—————chinensis	セキチク、石竹
1438	—————caryophyllus	是「アニーリール [Anjelier]」也
1439	—————japonicus Th.	フジナデシコ
1440	<i>Saponaria vaccaria</i> P.S.	トウクワンサウ、王不留行
1441	<i>Silene kawaragoma</i> Jap.	カワラゴマ
1442	<i>Lychnis chalcedonica</i> Th.fl.	センノウ

1347	-----habusoo	ハブサウ
1348	-----sendaihagi	センダイハギ
1349	Amorpha	クラハ、苦参
1350	Glycyrrhiza kansoo	カンザウ、甘草
(81 LXXXI Capparideae)		(第81科 フウチョウソウ科)
1351	Drosera (ergalion) muscipula	イシモチサウ、茅膏菜
1352	-----	モウセンゴケ
1353	Parnassia palustris (japonica)	ムメバサウ
1354	-----sirahige M.Z. n25	シラヒゲサウ
(82 LXXXII Guttiferae)		(第82科 オトギリソウ科)
1355	Hypericum patulum Th.	キンシバイ、金糸梅
1356	-----monagnum Th.	ビヨウヤナキ、金糸桃
1357	-----ascyron qmel	クサビヤウ
1358	-----erectum Th.	ヲトギリサウ
1359	-----tsukidoosi Jap.	ツキドウシヲトギリサウ
1360	H. (e mtjuka)	ヲトギリサウノ一種
1361	Hypericum himeotogirisoo	ヒメヲトギリサウ
1362	Ascyrum baikwaamatsja	バイクワアマチャ
(83 Agrumae)		(第83科 ミカン科)
1363	Aegle sepiaria DC.	ゲズ
1364	Citrus medica β, γ	ユ、柚、ハナユ
1365	-----nobilis	ミカン、柑
1366	-----mamikan	マミカン
1367	-----koosi	カウジ
1368	-----japonica Th.	キンカン
1369	-----margarita	トウキンカン
1370	-----sapon	サボン
1371	-----aurantium	トウク子ンボ、香欖
1372	-----kwnen	ク子ンボ
1373	-----busjkan Sieb.	マルブシユカン
1374	Citrus sareodactylis Sieb.tebusikan	テブシユカン、佛手柑
1375	-----medica S.kabosu	カブス
1376	Aglala japonica	モクコク
1377	Eurya hortensis Sie.	
1378	-----montana Sieb.	
1379	-----Jap. α multiflora S.	
1380	----- β parviflora S.	
1381	-----kaempferiana DC.	サカキ
1382	Eurya japonica Th.	ヒサカキ、枹
1383	-----microphylla S.	ヒメヒサカキ
1384	-----littoratis S.	イソヒサカキ
1385	-----uniflora S.	ヒトツミノヒサカキ
(84 LXXXIV Geraniae)		(第84科 フウロソウ科)
1386	Balsamina japonica S.	ツリフ子サウ
1387	-----hortensis DC.	ツマグレナイ、鳳仙花
1388	-----kitsurifune	キツリフ子
1389	Oxalis corniculata Th.fl.	カタバミサウ
1390	-----jamakatabami	ヤマカタバミ
1391	Geranium palustre Th.fl.	ゲンノシヤウコ、犍牛児苗
1392	-----daifuurosoo	ダイフウロサウ
1393	-----keiske	フウロサウノ一種
1394	Erodium	シホヤキサウ
(85 Malvaceae)		(第85科 アオイ科)
1395	Malva mauritiana Th.fl. α	セニアフヒ、錦葵

シーボルト編／伊藤圭介・賀来佐之録「日本植物目録」について

1292	<i>Dolichos afuimame</i>	アフイマメ
1293	——— <i>linearis</i> Th.	ハマナタマメ
1294	——— <i>lablab</i> L.	インゲンマメ
1295	——— <i>inearvutus</i>	ナタマメ
1296	——— <i>umbellatus</i>	サ、ゲ
1297	——— <i>hnsjoomame</i>	ハツシヤウマメ
1298	<i>Soja nomame</i>	ノマメ
1299	<i>Phaseolus vulgaris</i>	ビジンマメ
1300	——— <i>atsugi</i>	[アツキ]
1301	——— <i>bundo</i>	フンドウ
1302	<i>Glycine villosa</i>	タンキリマメ
1303	——— β	タンキリマメ、花実葉共ニ大ナルモノ
1304	<i>Pism sativum</i>	エンドウ
1305	——— <i>maritimum</i> Th.fl.	ハマエンドウ
1306	——— <i>jendoosoo</i> M.Z.	エンドウサウ
1307	<i>Bauhinia scandens</i> P.S.	カマカツラ
1308	<i>Ervum tetraspermum</i> Th.fl.	スマメノエンドウ、小巢菜
1309	——— <i>karasunojendoo</i>	カラスノエンドウ、大小巢菜
1310	<i>Vicia faba</i> Th.fl.	ソラマメ、蠶豆
1311	——— <i>?tsuruhuzibakama</i>	ツルフジバカマ
1312	——— <i>?kusafusi</i>	クサフヂ
1313	——— <i>?jebirafusi</i>	エビラフジ
1314	——— <i>?lathyrus</i>	レンリサウ
1315	——— <i>?nantenhagi</i>	ナンテンハギ
1316	<i>Indigofera tinctoria</i> Th.fl.	コマツナギ、馬棘
1317	<i>Medicago polymorpha</i> Th.fl.	ムマコヤシ、首宿
1318	——— <i>kometsugi</i>	コメツブムマコヤシ
1319	<i>Lupinus pentaphyllum</i>	シヤジクサウ
1320	<i>Astragalus sinicus</i>	ゲンゲバナ、紫実英
1321	——— <i>mijakogusa</i>	ミヤコグサ、百脉根
1322	——— <i>momendsuru</i>	モメンヅル
1323	<i>Hedysarum racemosum</i> Th.	ヌスビトハギ
1324	<i>Aeschynomene fujikansoo</i> M.R.	フジカンザウ、山緑豆
1325	——— <i>japonica</i> S.	クサ子ム、合萌
1326	———?	カワラケツメイ、山扁豆
1327	<i>Hedysarum microphyllum</i> Th.	マキエハギ
1328	——— <i>caudatum</i> Th. (jedo namen)	キハギ、ミソグサ
1329	<i>Arachis hypogaea</i>	ラツクワセイ、落花生
1330	<i>Hedysarum (Lespedeza tomentosa) lub</i>	コマハギ
1331	——— <i>sericea</i>	メドハギ、鐵掃帚
1332	——— <i>heterocarpon</i>	ハギ、胡枝子
1333	——— <i>(cublum)</i>	ミヤギノハギ
1334	——— <i>(sponte)</i>	ノハギ
1335	<i>Hedysarum (Lespedeza) striatum</i> Th.	ヤハズグサ、雞眼艸、コハギ
1336	——— <i>virgatum</i> Th.	ミツバハギ
1337	——— <i>kimame</i> Jap.	キマメ
1338	——— <i>pilosum</i> Th.	子コハギ
1339	——— <i>kihagi</i>	キハギ
1340	<i>Phaca ooki</i>	ワラギ、黄耆
1341	<i>Liparia?</i>	
1342	<i>Mimosa arborea</i>	子ムノキ、合歡
1343	<i>Inga (e Liu kiu)</i>	キンゴウクワン、金合歡
1344	<i>Caesalpinia japonica</i>	ジヤケツイバラ、雲実
1345	<i>Melilotus (e china)</i>	レイリヤウコウ、零陵香
1346	<i>Cassia tora</i> Th.fl. (e china)	ケツメイ、決明

1240	-----gregarius	キツ子ノボタン、回々蒜
1241	-----kokinbooge	コキンボウゲ
1242	Adonis vulgaris DC.	フクジュサウ、側金盞花
1243	Thalictrum thunbergii	ノガラマツ、林氏五卷八十六図アリ
1244	-----styloideum [L.f.]	カラマツサウ
1245	-----no1	? Thalictrum 林氏五卷八十五図ナンキンカラマツ
1246	-----no2	?
1247	Clematis paniculata Th.	センニンサウ、大蓼
1248	-----	テツセン、鉄仙蓮
1249	-----	カザグルマ
1250	Clematis hansjoodsuru Jap.	ハンシヤウヅル
1251	-----japonica Th.	ボタンヅル、女萎
1252	-----awabuk	アワブク、クサボタン
1253	-----minor DC.	タニモダマ
1254	Atrangene japonica Th.	キブ子ギク
1255	Anemone (hepatica) acutiloba DC.	スワマザイシン、獐牙細辛、林氏六卷七図アリ
1256	-----cernua Th.	シヤグマザイコ、白頭翁、林氏一卷五十一図アリ
1257	-----japonica S.	イチゲサウ、雙瓶梅、林氏一卷四十六図アリ
1258	-----haksan	ハクサンノイチゲサウ
1259	-----?	セツブンサウ
1260	-----?	トキワイチゲ
1261	-----?	[レンゲシヤウマ]
1262	-----tsinkuruma M.Z.	チングルマ
1263	Paeonia bouton DC	ボタン、牡丹
1264	-----albiflora Pall.	ヤマシヤクヤク
1265	-----albiflora (cult)	シヤクヤク、芍薬
1266	-----kambotan (flores hiyume)	カンボタン
1267	Caltha jenkoosoo Jap.	エンカウサウ
1268	Coptis ooren S.	ワウレン、黄連
1269	-----racemosa S.	セリバノウラレン
1270	-----mitsuwa	ミツバノウラレン
1271	-----kikubanooren	キクバノウラレン
1272	-----uniflora	ウコギバノウラレン
1273	Isopyrum japonicum DC.	ヒメウズ
1274	Aquilegia sibirica DC.	ヲダマキ、樓斗菜
1275	-----japonica S.	
1276	Aconitum japonicum Th.	トリカブト、烏頭
1277	Aconitum reisinsoo J.K.	レイジンサウ、牛扁
1278	Fragaria sterilis Th.fl.	クチナワイチゴ
(79 LXXIX Polygaleae)		(第79科 ヒメハギ科)
1279	Polygala japonica Th.	ヒメハギ、遠志
(80 Leguminosae)		(第80科 マメ科)
1280	Sophora japonica Th.(e china)	エンジュ、槐
1281	-----inuensju ?	イスエンジュ
1282	-----monosperma P.S.	
1283	Crotalaria sinensis P.S.	タヌキマメ
1284	Cercis siliquastrum Th.fl.	ハナズラウ、紫荊花
1285	Spartium jenista	エニシダ
1286	-----retama Jap.	レダマ
1287	Dolichos polystachyos	フジ、紫藤
1288	-----kofusi	コフジ
1289	-----iwafusi (indigofera)	イワフジ、胡豆
1290	Soja japonica S.	タイツ、大豆
1291	Dolichos hirsutas Th.	クヅ、葛

1189	————saricaria Th.fl.	ミゾハギ
1190	Lagerstroemia japonica Th.fl.	サルスベリ
(76 LXXVI Cruciferae)		(第76科 アブラナ科)
1191	Turritis hispidula DC.	ハタザラ
1192	Turritis jamanohatasawo	ヤマノハタザラ
1193	————glabra DC.	毛ナシハタザラ
1194	————sususirosoo Jap.	スマシロサウ
1195	Brassica chinensis DC.	トウナ
1196	Brassica	ハボタン
1197	————orientalis Linn.	カブラナ
1198	B.sarana(?)	
1199	————rapa DC.	カブナ
1200	————mizuna	ミズナ
1201	Sinapis sinensis	タカナ
1202	————karasi (?)	カラシ
1203	Raphanus suikwadaikon Jap.	スイクワダイコン
1204	Raphanus sativus	ダイコン
1205	Raphanistrum nodaikon Jap.	ノダイコン
1206	Cheiranthus annuus Bal.	アラセイトウ、紫羅欄
1207	Cardamine scutata Th.	
1208	α	タガラシ
1209	β	タガラシ
1210	γ	タガラシ
1211	Thlaspi arvense DC.	グンバイウチワ
1212	Draba muralis Th.fl.	イヌナツナ
1213	————inusironadsna M.Z.	シロイヌナズナ
1214	Capsella bursa-pastris DC.	ナツナ
1215	Sisymbrium inukarasi	イヌカラシ
1216	————amphybium Th.fl.	スカシタゴボウ
1217	Crucifera	ハマナ、○ヤマガラシ
1218	Crucifera jamagarasi J.K.abb.	ヤマガラシ
1219	————saruderei M.Z.n12	クジラグサ
1220	————(Cochlearia)	ワサビ、山蕎麦
1221	Isatis daisei Jap.	タイセイイ、大青
(77 LXXVII Papaverceae)		(第77科 ケシ科)
1222	Dicentra spectabilis DC.	ケマンサウ
1223	————tenuifolia DC.	ゴマクサ
1224	Corydalis(?)bitstiri M.Z.	ヒツチリ
1225	Corydalis l capnoides racemosa Th.	キケマン
1226	————β	
1227	————japonica Sieb.	ムラサキゲマン、紫莖
1228	2 capnites decumbens Th.	エンゴサク、延胡索
1229	————micsa (?DC.)	漢種エンゴサク
1230	————decumbens β	細葉エンゴサク
1231	Chelidonium japonicum Th.	ヤマブキサウ
1232	Chelidonium ineisum S.	クサノヲウ
1233	Papaver somniferum Th.fl.	ケシ
1234	————rheas Th.fl.	ビジンサウ
1235	Actaea japonica Th.	イヌシヤウマ
1236	————sarasinasjooma J.K.	サラシナシヤウマ
1237	————jnusjooma	イヌシヤウマ
(78 LXXVIII Ranunculaceae)		(第78科 キンボウゲ科)
1238	Ranunculus japonicus [Thunb.]	キンボウゲ
1239	————ternatus	タガラシ

1141	————mokuren	モクレン
1142	————simokuren	シモクレン
1143	————oojamarengé	ヲ、山レンゲ
1144	————? tamusiba	タムシバ
1145	————kobusi Jap.	コブシ
1146	————murasakikobusi	ムラサキコブシ
1147	————sjaga Jap.	シヤラノキ
1148	Katsura japonica Th.	ヒナカツラ
1149	————matsubusa Jap.	マツブサ○チャウセンゴミシ
(70 Melicæ)		(第70科 センダン科)
1150	Melia azedarach	センダン、山楝
1151	Melia toosendan	トウセンダン、苦楝
1152	Koelreuteria DC.	センダンヨーノボダイジュ
1153	Koelreuteria	
(71 Malpighiaceæ)		(第71科 キントラノオ科)
(72 Acerinæ)		(第72科 カエデ科)
1154	Acer septemlobum Th. fl. α	モミヂ
1155	———— —Th. fl. β	
1156	Acer septemlobum Th. var. α, β, γ	モミジ
1157	Acer japonicum Th. fl.	メイゲツモミジ
1158	Acer akikaze	アキカゼ
1159	————dissectum Th. fl.	
1160	————sirakikajede(?)	シラキカヘデ
1161	————onimomisi Jap.	オニモミヂ
1162	————mijamakajede(?)	ミヤマカヘデ
1163	————trifidum Th.	トウカエデ
1164	————hananoki J.K.	ハナノキノ類
1165	————mitsdemomisi	ミツデモミジ
1166	————tsjoosjanoki	チャウジヤノ木
1167	————jtsigjooïn H.J.K.	イチギヤウイン
1168	————konzinoki	コンジノキ
1169	————urikaede Jap.	ウリカエデ
1170	————sorokkokaede	ソロツコカエデ
1171	————jamasiba	ヤマシバ
1172	————ogarahana	ヲガラハナ
1173	————tokiwakajede	トキハカエデ
1174	————pictum Th. fl.	アサヒカエデ
1175	————itanigi Jap.	イタギ
1176	————karakogi Jap.	カラコギ
1177	————hanakatsura Jap.	ハナカツラ
1178	————? megsolinoki	メグスリノキ
(73 Sapideæ)		(第73科 ムクロジ科)
1179	Sapindus [mukurosi]	ムクロジ、無患子
1180	Sapindus siromukurosi (in insul. liukiui)	シロムクロジ
1181	Aesculus pavia	トチノキ、七葉樹
(74 Onagraceæ)		(第74科 アカバナ科)
1182	Epilobium akabana Jap.	アカバナ、柳葉菜
1183	————janagisoo Jap.	キソノヤナギサウ
1184	Gonocarpus micranthus Th.	アリノトウ
1185	Circaea tanitade Jap.	タニタデ、○ミツタマサウ
1186	Tetragonia japonica Th.	ハマナ
1187	Tamarix sinensis R.S.	ギヨリウ
(75 Salicariaceæ)		(第75科 サリカリア科)
1188	Lythrum tsjozitate Jap.	タヤウシタテ

1092	<i>Hovenia dulcis</i> Th.	ケンボナシ、枳椇
1093	<i>Ilex latifolia</i> Th.	タラヤウ、娑羅樹
1094	<i>Ilex odora</i> Sieb. (osmenthus)	ヒラギ、狗骨
1095	——— β	ヒメヒイラギ
1096	<i>Ilex integra</i> Th.	モチノキ
1097	<i>Ilex kurosoyogo</i> J.K.	クロソヨゴ
1098	——— <i>rotunda</i> Th.	トリモチ
1099	——— <i>siroki</i> Jap.	シロキ
1100	——— <i>yamadome</i> M.Z.	ヤマヤドメ
1101	——— <i>fukuramotsi</i> Jap.	フクラモチ
1102	———?	
1103	——— <i>tsurutsuke</i> Jap.	ツルツケ
1104	——— <i>ohomidsuki</i>	オ、ミツキ
1105	——— <i>microeurpa</i> S.	コシヨウバイ
1106	<i>Orixa japonica</i> Th.	コクサギ
1107	(<i>Ilex</i>) <i>deptica</i> S.	イヌツゲ
1108	——— <i>imame</i> Jap.	イマメ
1109	——— <i>hiragimokusei</i> S.	ヒラギモクセイ
1110	——— <i>mumemodoki</i> Jap.	ウメモドキ
1111	———? <i>hirakikasi</i> Jap.	ヒラキガシ
1112	———? no1	
1113	———? no2	
1114	<i>Skimmia japonica</i> Th.	ミヤマシキミ、茵芋
1115	<i>Staphylea heterophylla</i> R.S.	ゴンズイ、樗
1116	<i>Euonymus japonicus</i> Th.	マサキ、杜仲一種、 α マルバノマサキ、 β ホソバノマサキ
1117	——— <i>alatus</i> S.	ニシキギ、衛矛
1118	——— <i>majumi</i> S.	マユミ、桃葉衛矛、林氏五卷三十図アリ
1119	——— <i>tsuribana</i> Jap.	ツリバナ
1120	——— <i>thunbergii</i>	マユミ
1121	<i>Celastrus articulatus</i>	ツルムメモドキ
1122	<i>Celastrus hokken</i>	ツルムメモドキノ類、形状サカキノ如シ、桂川氏贈之
1123	——— <i>punctatus</i> Th.	
1124	<i>Pitlosporom tobira</i> P.S.	トベラ

(65 **Diosmaceae**)

(第65科 **ディオスマ科**)

(66 **Berberidaceae**)

(第66科 **メギ科**)

(67 **Rutaceae**)

(第67科 **ミカン科**)

1125	<i>Ruta japonica</i> S.	マツカゼサウ
1126	——— <i>graveolens</i> T.fl.	ヘンルーダ
1127	<i>Mahonia japonica</i> DC.	ヒラギナンテン
1128	<i>Nandina domestica</i> Th.	ナンテン
1129	<i>Hamamelis mansak</i> S.	ムメヅエ、マンサク
1130	<i>Berberis cretica</i> Th.fl.	メギ
1131	——— <i>vulgaris</i> Th.fl.	ヘビノボラズ
1132	<i>Epimedium japonicum</i> S.	イカリサウ
1133	——— <i>ikarisoo</i> S.	イカリサウ
1134	——— <i>sinense</i> S.	ホザキノイカリサウ
1135	<i>Dictamnus hakusenpi</i>	ハクセンビ
1136	<i>Zygodphyllum karasunogoma</i>	カラスノゴマ

(68 **Menispermaceae**)

(第68科 **ツツラフジ科**)

1137	<i>Menispermum japonicum</i> Th.	ハスカツラ
1138	——— <i>ootsudsurafusi</i> Jap.	ヲホツマラフジ
1139	——— <i>acutum</i> Th. Ito Keiske	漢種ポオイ

(69 **Magnoliaceae**)

(第69科 **モクレン科**)

1140	<i>Magnolia hoonogi</i> Jap.	ホウノキ
------	------------------------------	------

1042	Meum foeniculum	ウキイヤウ
1043	Cicuta virosa P.S	オ、ゼリ
1044	Sanicula japonica S.	ヤマミツバ
1045	Sanicula(?) mitsuba	ミツバ
1046	Peucedanum japonicum	ボタンボウフ、防葵
1047	Selinum hatsisoosjo Angelica	ハチシヤウサウ、鹼草
1048	-----bjakusi	ビヤクシ、白芷
1049	Chaerophyllum scabrum	
1050	-----nagasirami Jap.	ナガシラミ

(Umbell. Obscurae)

(セリ科未詳品)

1051	sengo α flor. alb. β flor.purup.	ゼンゴ、前胡
1052	hamaseri ad diftes maris	ハマゼリ
1053	koohon culta	カウホン
1054	senkju	センキウ
1055	daijooosenkju	大葉センキウ
1056	ibukiboofuu	イブキボウフウ
1057	Kijomasaninzin	キヨマサンニンジン
1058	Kawazengo	カワゼンゴ
1059	Sekiboofuu	?セキボウフウ俵再考
1060	Sirajamaninzin	シラヤマニンジン
1061	Udomodoki	ウドモドキ

(62 Saxifragae)

(セリ科ユキノシタ科)

1062	Saxifraga sarmentosa Th.	ユキノシタ
1063	-----daimuzisoo	ダイモジサウ
1064	-----kikbano	キクバノダイモジサウ
1065	Tiarella awamorisoma Jap.	アワモリシヤウマ
1066	-----toriasisjooma Jap.	トリアシシヤウマ
1067	-----akasjooma Jap.	アカシヤウマ
1068	-----? jamabukisjooma	ヤマブキシヤウマ
1069	Bumalda trifolia Th.	ミツバウツギ、省姑油
1070	Hydrangea paniculata S.	ノリウツギ、ノリノキ
1071	-----hirta S.	ヤマアヂサイ
1072	-----involutrata S.	ギンガサウ
1073	-----alternifolia	クサガク
1074	-----virens S.	ガクウツキ
1075	-----thunbergii	アマチヤ β ヤマチヤ
1076	-----azisai	アジサイ
1077	-----sitsidankwa Jap.	シチダンクワ
1078	-----tsurudemari	ツルデマリ ○ゴトウヅル

(63 Terebinthinaceae)

(第63科 テレピン科)

1079	Rhus succedaneum Th.fl.	ハゼノキ
1080	Rhus succedaneum γ,β kurohase.	クロハゼ
1081	-----haseursi Keis.	ハゼウルシ
1082	-----javanicum Th.	フシノキ
1083	-----vermix Th.	ウルシ
1084	-----radicans P.S.	ツタウルシ
1085	Fagara piperita Th.	サンシヤウ
1086	-----horrida Th.	フユザンシヤウ
1087	-----inusansjo	イヌサンシヤウ

(64 Rhamneae)

(第64科 クロウメモドキ科)

1088	Rhamnus sonogi Jap.	ソノギ、妓女園木初贈之、花戸巴棘
1089	-----jokosjoozi Jap.	ヨコシヨウジ、ソノキノ如ク
1090	Zizyphus koonatsume Jap.	サ子ブトナツメ
1091	-----?	ナツメ

989	<i>Vitis japonica</i> Th.β	ツルアマチヤ、紋股藍
990	——— ———Th.	ヒンボウカツラ、烏養母
991	———tsuta	ツタ、地錦
992	———labrusca Th.fl.	カ子ブ、紫葛
993	———nobudoo Jap.	ノブドウ、蛇葡萄
994	<i>Vitis sankakusoo</i> J.K.	サンカクサウ
995	———jamabudoo J.K.	ヤマブドウ
996	<i>Alsus bijakuren</i> Jap.(?)	ビヤクレン、白養
997	<i>Vitis flexuosa</i> Th.	エビヅル、夔夔
998	———vinifera Th.fl.	ブドウ
999	<i>Hedera helix</i>	キズタ
1000	——— ———v.β	モミジツタ
1001	<i>Cornus mascula</i> v. <i>japonica</i>	サンシユ
1002	———alba Th.fl.	クマノミツキ
1003	———florida ?	ヤマボウシ
1004	———mizuki Jap.	ミズキ
1005	<i>Aukuba japonica</i> Th.	アヲキ
1006	<i>Viscum hinokibanoadoriki</i> Jap.	ヒノキバナヤドリ
1007	———matsunoadoriki	マツノヤドリキ
1008	<i>Sambucus racemosa</i> R.S	コバナタズノキ
1009	———pubescens R.S.	タズノキ
1010	———canadensis	クサタス、蒴藋

(61 Umbelliferae)

(第61科 セリ科)

1011	<i>Aralia jamaguruma</i> Jap.	ヤマククルマ
1012	———mitsde S.	ミツデ
1013	———harigiri Jap.	ハリギリ、刺楸
1014	———chinensis P.S	ダラ、槐木
1015	———pentaphylla Th.	ウコギ、五加
1016	——— ———β	ウコギ
1017	———onikogei Jap.	ヲニウコギ
1018	———edulis S.	ウド、土当飯
1019	———japonica Th.	ヤツデ、金剛纂
1020	<i>Panax quinquefolium</i> L.	ニンジン、人參
1021	———α japonica S.	チクセツニンシン、土參
1022	———coraeuris β	チヤウセンニンシン、朝鮮人參
1023	<i>Hydrocotyle tsbukusa</i> Jap.	ツボグサ、積雪草
1024	———awohigusa Jap.	アライゴケ
1025	——— [tsidomegusa]	チドメグサ
1026	<i>Bupleurum marubanoaiko</i> Jap.	マルバナサイコ
1027	<i>Sium kamakurasaiiko</i> Jap.	カマクラサイコ
1028	<i>Carum kumanomizuki</i> M.Z.	圭按クマノミツキ歟、然トモ重複
1029	<i>Aralia imonoki</i> M.Z.	[イモノキ]
1030	———haribuki J.K.	ハリブキ
1031	<i>Sium decumbens</i> Th.	クサンニンシン
1032	———sisarum Th.fl.	ムカゴニンシン
1033	——— ———v.β fol. angust.	シムラニンシン
1034	<i>Apium seri</i> Jap.	セリ
1035	———ternatum Welles ?	トウキ、当飯
1036	———petroselinum hortat	ヘートルセーリー
1037	———graveolens	ヲランタセリ、按セルデレイ
1038	<i>Coriandrum sativa</i> aul	コエントル
1039	<i>Daucus gingidium</i> Th.	ヤブニンジン
1040	———carota L.	ニンシン
1041	<i>Anethum graveolens</i>	イノント

937	<i>Cucumis melo</i> α	マクワウリ、甜瓜
938	—————β	クワシウリ
939	—————sativus P.S.	キウリ、甜瓜
940	—————conomon Th.	シロウリ、〔瓠瓜〕
941	<i>Cucurbita hispida</i> Th.	トウクハ、冬瓜
942	—————citrullus P.S.〔L.〕	スイクハ、西瓜
943	—————β	シロススイクハ
944	—————pepo P.S.	ボウブラ、南瓜
945	—————β	キントウクハ
946	—————lagenaria P.S.	ヒヨウタン
947	<i>Trichosanthes cucumerina</i> Th.fl.	カラスウリ、王瓜
948	—————tsuruhoosuki	ツルホウツギ
949	—————kikarasuri Jap.	キガラスウリ、栝樓
950	—————gokidsuru Jap.	ゴキツル、合子艸

(59 Rubiaceae)

(第59科 アカネ科)

951	<i>Galium verum</i> Th.fl.	カワラマツバ、蓬子菜、林氏六卷四十七図
952	—————ulginosum Th.fl.	ヤエムグラ、猪殃々
953	—————mucronatum P.S.? β	ヨツバムクラ
954	—————? tsukubanesoo M.Z.	ツクバ子サウ、圭云此品王孫ト同名也一名キヌタサウ
955	—————? kurumabanatsukubanesoo M.Z.	クルマハノツクハ子サウ、圭按是権氏ノ追加誤ナリ、是所謂八葉ノ王孫ニシテ「パリス」ナリ、前ニ出ツ
956	<i>Asperula?</i> M.Z. no29	
957	<i>Rubia cordata</i> Th.fl.	アカ子、茜艸
958	<i>Mussaenda konronkwa</i> Jap.	コンロンクハ
959	<i>Gardenia florida</i> Th.fl.	クチナシ
960	—————radicans Th.	コクチナシ
961	—————maruba S.	マルハクチナシ
962	<i>Ophiorrhiza japonica</i> Bl.	フシクロ 茎縮モリサウニ似タリ
963	<i>Passiflora caerulea</i> P.S.	トケイサウ
964	<i>Ixora santankwa</i> (c hiukiu)	サンタンクワ

(60 Caprifoliae)

(第60科 スイカズラ科)

965	<i>Lonicera flexuosa</i> Th.	ニンドウβ
966	<i>Xylosteum kinginbokoe</i>	キンキンボク
967	—————japonicum Th.α	ヲハハノニントウ
968	—————β	ヲハハノニントウ
969	—————uguisugagura Jap.	ウグイスカグラ
970	—————	黄ウグイスカグラ
971	<i>Viburnum kanbokoe</i> Jap.	カンボク
972	—————plicatum Th.	テマリ
973	—————macrophyllum Th.fl.	ハクサンボク
974	—————cuspidatum Th.	
975	—————jamademari Jap.	ヤマテマリ
976	—————dilatatum Th.	ガマズミ
977	—————erosum Th.	コバノガマズミ
978	—————gomagi Jap.	ゴマキ
979	—————? ginbaisoo	キンハイサウ
980	—————no 1	
981	—————no 2	
982	<i>Viburnum?</i> awafuki	アワフキ、スカハラ
983	—————heminoki J.K.?	ヘミノキ
984	<i>Loranthus jadoriki</i> Jap.	イチイガシノヤトリキ
985	<i>Chloranthus japonicus</i> S.	フタリシツカ
986	—————var. mium	マユハキサウ
987	—————inconspicuus P.S.	チャラン、金粟蘭
988	—————montanus	センリヤウ

	(抹消)	(主按は侘人ノ加フルモノナラン、大丁艸ハ前ニ出ツ、ムラサキタンポヽ)
889	Picris japonica Th.	カウゾリナ、毛連菜
890	Lactuca sativa Th. fl.	チサ、萵苣
891	Prenanthes debilis Th. α	ツルニガナ、薊刀股
892	-----β	ツルニガナ
893	-----nigana Jap.	ニガナ、黄花菜
894	-----β flor. albis	タカサゴサウ、同白花
895	-----akinonogesi Jap.	アキノノゲシ、山高苣
896	-----onitabirako Jap.	ヲニタピラコ、黄鶴菜
897	-----var. β	
898	-----moerasakinigana Jap.	ムラサキニガナ、山苦蕒 (主按此品是也)
899	-----jakusisoo	ヤクシサウ
900	-----kisinagiku	キジナギク
901	-----dainomurasakinigana Jap.	タイノムラサキニガナ、山苦蕒
902	-----rhombifolia	同上
903	-----kanikoomuri	カニカウムリ
904	-----? higoominamesi Jap.	ヒゴヲミナメシ
905	-----? fukuwooso Jap.	フクワウサウ
906	-----jaburekasa	ヤブレガサ、兎兎傘
(Compositae dubria)		(キク科未詳品)
907	kikkohagama	キツカウハグマ
908	kanboksoo	カンボクサウ
909	koojaboki	カウヤボウキ
910	kitokiu ?	キトクイワノ類
911	momisihagama	モチジハグマ
912	jamabokutsi	ヤマボクチ
913	hakuma ?	カグマノ類
914	hangonsoo	ハンゴンサウ、劉寄奴艸
915	himehigotai	ヒメヒゴタイ
916	kumakiku	クマキク
917	oogonsoo	ヲ、コンサウ
918	hamasinogik'	ハマジノギク
919	kasiwahagama	カシワハグマ
920	komoliso	カウモロサウ
921	jamabokutsi β	ヤマボクチ類
922	teisjoosoo	テシヨウサウ可疑
923	usujukisoo	ウスユキサウ
924	mulnick	
925	-----	
(56 Aggregatae)		(第56科 東生花科)
926	Scabiosa rinbookiku Jap.	マツムシサウ、山蘿蔔
927	-----maritima Th. ?	
(57 Valerianae)		(第57科 オミナエシ科)
928	Patrinia villosa Juss.	ヲトコメシ
929	-----rupestris Juss.	ヲミナメシ
930	-----kindankwa Jap.	ハクサンヲミナメシ
931	Fedia olitoria P.S.	ノヂシヤ
932	Valeriana jamanokanosoo Jap.	ヤマカノコサウ
933	-----officinalis Th. fl.	カノコサウ
(58 Cucurbitacea)		(第58科 ウリ科)
934	Momordica charantia Linn.	ニガウリ
935	Luffa foetida Blau.	ヘチマ、絲瓜
936	-----β	ナカヘチマ

834	ibukijomoki Jap.	イブキヨモギ、萹蒿
835	japonica Th.	ヲトコヨモギ、牡蒿
836	inujomogi Jap.	イヌヨモギ
837	kusuninjin	クソニンジン
838	keisakjomoki	ケイサクヨモギ
839	himejomoki	ヒメヨモギ
840	abrotanum Th.fl.	カワラニンジン
841	sirojomigi	シラヨモギ
842	capillaris Th.	カワラヨモギ
843	asagirisoo	アサキリサウ
844	minima Th.fl.	ハナヒリグサ
845	Gnaphalium japonicum Th.	チハコグサ、鼠麴一種
846	arenarium Th.fl.	モチバナ、鼠麴
847	kawahooko Jap.	カワラホウコ、萩
848	jamahooko Jap.	ヤマホウコ、萩一種
849	Carpesium cernuum Th.	ガンクピサウノ一種
850	abrotanoides	ヤブタバコ、天名精
851	Tussilago petasites Th.fl.	フキ、威冬
852	Tussilago tamabuki Jap.	タマブキ
853	japonica Th.	ツワブキ、橐吾
854	Tuss. cucultatum Sieb.	オホツワブキ
855	takarako Jap.	タカラカウ
856	Perdicium tomentosum Th.	センボンヤリ、大丁艸
857	Arnicae japonica Th.	ハンクワイサウ
858	Inula helenium Th.fl.	オホグルマ、土木香
859	japonica Th.fl.	ラクルマ、旋覆花
860	dubia Th.	ミヅキク
861	Erigeron japonicum Th.	ヤマジオホ
862	Solidago virgaurea Th.fl.	アキノキリンサウ
863	Aster indicus Th.fl.	ヨメナ、雞児腸
864	scabra Th.	シラヤマギク、東風菜
865	hispidus Th.	ヤマジノギク、鉄捍蒿
866	asumagikoe Jap.	アズマギク
867	kongik'	コンギク
868	himezioon Jap.	ヒメシラン
869	siwon Jap.	シラン、紫苑
870	jamazirogiku Jap.	ヤマシロギク、野粉團児
871	nosjunkiku	ノジュンキク
872	Cineraria japonica Th.	サワラグルマ、狗舌艸
873	Senecio japonicus Th.	サンシチ
874	sawagiku	サワギク
875	Chrysanthemum coronarium Th.	シユンギク
876	hamagik' Jap.	ハマギク
877	tsjoosengik'	チヤウセンギク
878	procumbens	イワキク
879	jamagiku	ヤマギク、世ニカモメ菊ト云フ
880	indicum Th.fl.	キク、菊
881	Eclipta prostrata	タカサブ
882	siwokaza Jap.	シホカゼ
883	Eclipta numadaikon Jap.	ヌマダイコン
884	Achillea nokogirisoo	ノコギリサウ、蒼草
885	Sigesbeckia orientalis Th.fl.	メナモミ、豨薺
886	Helianthus annuus	ヒマワリ
887	Sonchus kesiasami Jap.	ケシアサミ、苦菜
888	Leontodon taraxacum Th.fl.	タンホハ、蒲公英

783	——himetsudsusi Jap.	ヒメツハジ
784	——hikagetsudsusi Jap.	ヒカゲツハシ
785	——mitsubatsutsusi Jap.	ミツバツハジ
786	——motsitsutsusi Jap.	モチツハシ
787	——jodogawa Sieb.	ヨドガワツハシ
788	——japonica Sieb.	アカツハシ
789	——ootsutsusi Jap.	オホツハシ
790	——murasakitsutsusi Jap.	ムラサキツハシ
791	——satsuki (s'marak)	サツキツハシ
792	——kirisima	キリシマツハシ
793	——kikjootsutsusi H.M.Z	キハヤウツハジ

(53 Campanulac)

(第53科 キキョウ科)

794	Campanula trachelium (Th.fl.)	ホタルフクロ
795	——marginata Th.	ヒナノギハヤウ、細葉沙参
796	——sobana Jap. anthil in	ソバナ、薺萇
797	——galauca Th.	キキヤウ、桔梗
798	——karadanenosjazin Jap.	カラタ子ノシヤジン
799	——tetrphylla Th.fl.	ツリカ子ニンシン
800	Campanula baasobu (?)	バアソブ
801	——glomerata(?)jatssirosoo H.J.K.	ヤツシロ艸

(54 Lobeliae)

(第54科 ミソカクシ科)

802	Lobelia japonica Sieb.	サワギキヤウ、山梗菜
803	——radicans Th.	カラクサ、半邊蓮
804	——futatsubagusa J.K.M.Z.	フタツハクサ
805	——sitesjazin J.K.	シデシヤシン
806	Lobelia ? kagaribisoo J.K.	カマリビスウ

(55 Compositae)

(第55科 キク科)

807	Serratula tinctoria Th.fl.	ミヤコアサミ
808	Cnicus hireasami Jap.	ヒレアサミ
809	——jamaasami Jap.	ヤマアサミ
810	——noasami Jap.	ノアサミ
811	——linearis Th.fl.	ホソハヤマアサミ
812	——himeasami Jap.(Centaurea ?)	ヒメアサミ
813	Centaurea radiata P.S.	キツ子アサミ
814	—— —β floribus albis	タムラサウ
815	Atractylis lancea Th.	ソウジュツ
816	——ovata Th.	ソウジュツ、蒼朮
817	——byakujutsu	ビヤクジュツ、白朮
818	Echinops higotai Jap.	ヒゴタイ
819	——ohigatai Jap.	オホヒゴタイ
820	Arctium lappa P.S	ゴボウ、牛蒡
821	Carthamus tinctorius Th.fl.	クレナイ、紅花
822	Tagetes tenrinkba H.J.K.	ホウヲホサウ、萬寿菊
823	Tragopogon porrifolius P.S.	ジヤガタラズイセン
824	Calendula officinalis Th.fl.	キンセンクワ、金盞花
825	Eupatorium chinense Th.	フジバカマ、蘭草
826	——japonicum Th.	ヒヨトリバナ、山蘭
827	——album Th.	サワヒヨトリバナ、澤蘭
828	——hyssopifolium Th.	サワヒヨトリバナ、細葉澤蘭
829	Bidens pilosa Th.	センタンクサ、鬼鍼艸
830	——taukogi Jap.	タウコギ、狼把艸
831	——kitsenoja Jap.	ホソバノセンダンクサ
832	Artemisia vulgaris α	ヨモギ、艾
833	Artemisia vulgaris β	ヨモギ

732	———tsurugasiwa Jap.	ツルカシワ
733	———no 3	ウスキノフナワラ
734	———kusatsatsibana J.K.	クサタチバナ
735	———rokuonsoo	ロクヨン艸
736	Hoya carnosa R.S.(e Liukiu)	サクララン
737	Nerium odoratum L.(venerata Sieb.)	キヤウチクトウ
738	———divaricatum Th.fl.	テイカハツラ、絡石
739	Vinca rosea Th.(Liukiu)	ニチニチクワ、雁来紅
740	Carissa spinarum Th.fl.	コトリトマラス、刺虎
741	Carissa aridoosi J.K.	コハノアリトウシ
742	Paederia foetida Th.	ヘクソカツラ、女青

(50 Sapotae)

(第50科 アカツツ科)

743	Bladhia japonica Th.	ヤフカウジ、紫金牛
744	———(arelisia)	同
745	———villosa Th.	ツルダチ、ヤフカウシ
746	———crenata S.	カラタチバナ
747	Bladhia montana	ヤマタチバナ、硃砂根一種
748	———manrjoo S. crispa Th.	マンリヤウ

(51 Styraceae)

(第51科 エゴノキ科)

749	Styrax japonica Sieb.	チサノキ
750	———hakunboku Sieb.	ハクウンボク
751	Diospyros kaki Th.fl.	ヤマガキ
752	———tokiwagaki Jap. fol.perena	トキワガキ
753	———β tsuit ovalo oblongis	トウボシカキ
754	———sinanokaki Jap.	シナノガキ、君選子

(52 Ericaceae)

(第52科 ツツジ科)

755	Rhododendron maximum Th.	シヤクナンケ、石南
756	———? nikkosjakunage	日光シヤクナンケ
757	Pyrola japonica S	イチヤクサウ、鹿蹄草
758	———rotundifolia	マルハノイチヤクサウ、紫背天葵
759	———iwakagami Jap.	イワカハミ
760	———sukeroku Sieb.	スケロクイチヤク
761	———?mumegasasoo J.K.	ムメガササウ
762	Vaccinium ciliatum β Th.fl.	ハナヒリノキ、木藜蘆
763	———ciliatum α Th.fl.α,β,γ	ウスノキ
764	———hirtum Th.fl.	イワナシ
765	———bracteatum Th.fl.	[ワクラワ]
766	Erica ? hariganegusa	ハリガ子グサ
767	———tsuruaridoosi	ツルアリトウシ
768	———siratama	シラタマ
769	Andromeda japonica Th.fl.	アセホ、桜木
770	———joarakutsutsizi Jap.	ヤウラクツハシ
771	———kasjoosimi Jap.	カシヲシミ、緞木
772	Andromeda rjoobu Jap.	リヤウブ、山茶科
773	———hosobanoasebi Jap.	ホソバナアセボ
774	———himesjakunagi Jap.	ヒメシヤクナギ
775	———doodan Jap.	ドウダン
776	———benidoodan Jap.	ベニドウダン
777	———sirodoodan	シロドウダン
778	———? tsuriganetsutsusi M.Z.	ツリガ子ツハジ
779	———? iwatsubaki M.Z.	イワツバキ
780	Azalea rosmarinifolia	ウンゼンツハシ
781	———porticae ?	キツハシ
782	———baikwatsutsusi J.K.	バイクワツハジ

682	——ovigerum R.S.	シロナスビ、黄茄
683	<i>Lycium barbarum</i> Th.fl.	クコ、枸杞
684	——japonicum Th.	ハクチャユウ、満天星
685	———var. <i>cella</i>	タンチャユゲ

(46 Convolvuleae)

(第46科 ヒルガオ科)

686	<i>Convolvulus japonicus</i> Th.	ヒルカホ、旋花
687	——— <i>soldanella</i> Th.fl.	ハマヒルガホ、旋花一種
688	<i>Ipomoea tsjooziasagawo</i> Jap.	テウシアサガホ、丁香茄苗
689	——— <i>triloba</i> Jap.	アサガホ、牽牛
690	<i>Cuscuta europaea</i> Th.fl.	子ナシカヅラ、菟絲子
691	<i>Mamematohi?</i> (<i>Cuscuta?</i>)	マメマトイ

(47 Jasmineae)

(第47科 ソケイ科)

692	<i>Jasminum odoratissimum</i> P.S.	ソケイ、素馨
693	——— <i>humile</i> P.S.	リウキウワウバイ
694	——— <i>praeciox</i> Sieb.	ワウバイ、迎春
695	——— <i>sambac</i> P.	モウリンクハ
696	<i>Olea osmanthus magraas</i> Sieb.	モクセイ、木犀
697	——— <i>hiragimoksei</i> (japonicus)	ヒラギモクセイ
698	<i>Olea(?) kanran</i> Jap.	カンラン、橄欖
699	<i>Forsythia japonica</i> Vahl.	レンキヤウ、連翹
700	<i>Ligustrum ibota</i> Sieb.	イボタ、水銀樹
701	——— <i>japonicum</i> Th.	子ヅミモチ、女貞
702	——— <i>iwaki</i> Jap.	イワキ
703	———(sp.?)	イボタノ一種
704	———? <i>jego</i>	エゴ

(48 Gentianeae)

(第48科 リンドウ科)

705	<i>Gentiana aquatica</i> Th.fl.	ハルリンドウ
706	<i>Gentiana sasarindoo</i> Jap.	サハリントウ
707	——— <i>tsururindoo</i> Jap.	ツルリントウ
708	<i>Swertia rotata</i> Th.	センブリ
709	——— <i>hotarusoo</i> Jap.	ヨシノシツカ、ホタルサウ
710	<i>Swertia corniculata</i> P.S.	ホタルサウ
711	<i>Menyanthes trifoliata</i>	ミツカシワ
712	<i>Villarsia peltata</i> R.S.	シウンサイ
713	——— <i>asasa</i> Jap.	アサミ
714	——— <i>kagabuta</i> Jap.	カマブタ
715	<i>Veronica kugaisoo</i> Jap.	クカイサウ
716	——— <i>virginica</i> Th.	クカイサウ
717	——— <i>ruritoranoo</i> Jap.	ルリトラノヲ
718	——— <i>jamatoranoo</i>	ヤマトラノオ
719	——— <i>arvensis</i> Th.fl.	イヌフグリ
720	——— <i>musikusa</i> Jap.	ムシクサ
721	——— <i>anagallis</i> Th.fl.	カワジサ
722	——— <i>tooteiran</i> Jap.	トウテイラン
723	——— <i>kuwagatasoo</i> Jap.	クワガタサウ
724	——— <i>chamaedrys</i>	ヒヨクサウ
725	<i>Tripterospermum</i> (<i>trinuve wame</i>)	

(49 Contortae)

(第49科 回旋花科)

726	<i>Asclepias japonica</i> S.	フナワラサウ
727	——— <i>suzusaiko</i> Jap.	スササイコ
728	——— <i>suzumenoogoke</i> Jap.	スズメノヲコケ
729	——— <i>gagaimo</i> Jap.	ガマイモ
730	——— <i>jkema</i> Jap.	イケマ
731	——— <i>ijkatsura</i> Jap.	イヨカツラ

630	Melissa? zjakoosoo Jap.	ジヤカウサウ
631	Clinopodium vulgare Th.fl.	クルマバナ
632	-----kisewata Jap.	キセワタ
633	Ajuga procumbens Th.	チゴクノカマノフタ
634	Thymus jbukisiakoosoo Jap.	イブキジャカウサウ
635	Origanum ?	ナギナタカウジュ
636	-----tenninsoo Jap.	テンニンサウ
637	Melittis japonica Th.fl.	チワウ
638	-----? zjakoosoo α	シヤカウサウ
639	-----?	ミソカワサウ
640	Ocimum rugosum Th.fl.	ヒキヲコシ
641	-----punctatum Th.fl.	メボウキ
642	-----jamahakka Jap.	ヤマハッカ
643	-----?	
644	Labiata sirosisoo	シロシソ
645	-----suzumisoo	スダムシサウ
646	Acinos siso Sieb.	シソ
647	-----jegoma Sieb.	エゴマ
648	-----inukoozju	イスカウシユ
649	-----multiflorus Sieb.	タウバナ
650	Scutellaria hyssopifolia Mick.	ヲウゴン
651	-----indica Th.fl.	タツナミサウ
652	-----namikisoo Jap.	ナミキサウ
653	Prunella vulgaris Th.fl.	ウツボグサ
654	Phryma leptostachya P.S.	ハイドクサウ
655	Labiata(?) akitoozi Jap.	アキテウシ
656	Dracocephalum rasjoomon Jap.	ラセウモン
657	Mentha foeniculi Sieb.	シロカワミドリ
658	-----piperita	ウスムラサキ、カワミドリ
659	-----hakka	ハツカ
660	-----himehakka Jap.(H.Cass)	ヒメハツカ
(44 Asperifoliae)		(第44科 ムラサキ科)
661	Myosotis orurisoo Jap.	ヲホルリサウ
662	-----apula Th.fl.	タビラコ、雞腸艸
663	Picotia verna R.S.一作Bicotea verna	カメバサウ
664	-----uguhisusoo Jap.	ウクイスサウ
665	-----? kajame M.Z.lih.k	カワラケナ、ホトケノザ
666	Cynoglossum japonicum	カワラケナ、葉間花ヲ堯
667	Cynoglossum hamamurasaki Jap.	ハマムラサキ
668	Lithospermum murasaki Jap.	ムラサキ
669	Asperifolia tsunahikisoo M.Z.no22	ツナヒコサウ
(45 Solanaceae)		(第45科 ナス科)
670	Solanum lyratum Th.	ヒヨドリシヤウゴ、蜀羊泉
671	-----nigrum Th.fl.	イスホウツギ、龍葵
672	Capsium annuum arbor	トウガラシ、番椒
673	Physalis hatakehoodsuki Jap.	ハタケホウツギ、苦職
674	-----alkengkeng P.S.	ホウツギ、酸醬
675	-----joorakhoodsuki Jap.	ヨウラクホウツギ
676	Nicotiana chinensis R.S.	タバコ、烟草
677	Datura stramonium Th.fl.	チャウセンアサガハ 曼陀羅花
678	Solanum	サンゴジュナスビ
679	Solanum tuberosum Th.fl.	ジヤガタラナスビ、馬鈴薯
680	-----marabanhorosi	マルバノホロシ、白英
681	-----esculentum R.S	ナスビ、茄

580	-----hankwaiasami Jap.	ハンクワイアサミ
581	-----sjoogamasoo Jap.	シホガマサウ
582	-----hakusan Sieb.	ハクサンノシホガマサウ
583	-----β	ゴマクサ
584	-----gomakusa Jap.	ゴマクサ
585	Personeta? hikijomogi Jap.	ヒキヨモギ
586	Euphrasia ibukikogomegusa Jap.	イブキコバメグサ
587	Sesamum orientale Th.fl.	ゴマ
588	-----α	クロゴマ
589	-----β	シロゴマ
(40 Acanthaceae)		(第40科 キツネノマゴ科)
590	Ruellia oginotsume Jap.	ヲギノツメ
591	-----kitsnenomago Jap.	キツネノマゴ
592	-----iwagikjoo Jap.	イワギキヤウ、○イセハナビ
593	Justicia rukoo Jap.	ルカウ
(41 Bigoniaceae)		(第41科 ノウゼンカズラ科)
594	Bigonia tomentosa Th.	キリ
595	-----catalpa Th.fl.	キサ、ゲ
596	Incarvillea chinensis L.E.	ノウゼンカヅラ
(42 Viticeae)		(第42科 ハマゴウ科)
597	Callicarpa jamamurasaki Jap.	ヤマムラサキ
598	----- (jambumurasaki) farinosa	ヤブムラサキ
599	----- (mimurasaki) japonica Th.	ミムラサキ
600	-----β	コムラサキ
601	Clerodendron trichotomum Th.fl.	クサギ、臭梧桐
602	-----kampferi Sieb.	トウギリ、赭桐
603	Vitex ovata Th.	マンケイ、蔓荊
604	-----hamakusagi	ハマクサギ
605	-----ninzinboku	ニンジンボク、牡荊
606	Viticea ?	カリカ子サウ、薔
607	Verbena officinalis Th.fl.	クマツバラ
608	Weigela japonica Th.	ムメサキウツギ
609	-----hortensis S.	シロウツギ、○ベニウツギ
610	Weigela taniutsugi	タニウツギ、楊榎
611	-----hakoneutsuki	ハコ子ウツギ、錦帯花
(43 Labiatae)		(第43科 シソ科)
612	Salvia akigiri Sieb.	クワガタサウ
613	-----japonica Th.	コマトバメ
614	Rosmarinus officinalis P.S.	マン子シロウ
615	Nepeta incana Th.	タンキク、ランギク
616	Lycopus australis Brow.	シロ子、地瓜兒、林氏五卷五十三図アリ
617	-----inusiron Jap.	イヌシロ子
618	Teucreum virginicum Th.fl.	イヌシヨロギ
619	Ajuga indica Th.fl.	ジウニヒトエ
620	-----zindoosoo Jap.	ジンドウサウ
621	-----woogikatsura Jap.	ワウギカヅラ
622	-----pratun Th.	金瘡小艸
623	Lavandula keigai	ケイガイ
624	Glechoma hederacea Th.fl.	カキドウシ、林氏六卷四十四図アリ
625	Lamium garianicum Th.fl.	ヲドリコサウ
626	-----amplexicaule Th.fl.	ホトケノザ
627	Stachys seiran Jap.	ムシヤリンドウ、セイラン
628	-----inoegoma Jap.	イヌゴマ
629	Panzeria sibirica P.S.	メハジキ、益母艸

532	————akoo Jap.	アカウ
(35 Tricoceae)		(第35科 三小果科)
533	<i>Euphorbia japonica</i> Sieb.	カンズイ
534	————jwataigeki Jap.	イワタイゲキ
535	————takatoodai Jap.	タカトウダイ
536	————no 4	
537	————jenokikoesa	エノキグサ
538	————helioscopia Th. fl.	トウタイクサ
539	————hortosoo Jap.	ホルトサウ
540	————thymifolia Th. fl.	ニシキサウ
541	————hagikusoo Jap.	ハギクサウ
542	<i>Euphorbia sawaurusi</i> Jap.	サウルシ
543	————canadiensis Th. fl.原書 Canariensisニ作ル	キリンカク
544	<i>Croton sebiferum</i> L.E.	ナンキンハゼ、鳥旧
545	————japonicum Th.	アカメカシワ、梓
546	————siraki Sieb.	シラキ
547	<i>Pachysandra japonica</i> S.	フウキサウ
548	<i>Aleurites japonica</i> Th.	アブラキリ、罌子桐
549	<i>Mercurialis japonica</i> Sieb.	ヤマアイ
550	<i>Buxus suffruticosa</i> P.S	アサマツゲ
551	————angustifolia P.S.	ヒメツゲ、黄楊
552	<i>Ricinus communis</i> Th. fl.	トウゴマ、葶麻
553	<i>Phyllanthus niruri</i> Th. fl.	チャフクロ
554	<i>Phyllanthus hitotsbahagi</i> J.K.	ヒトツバハギ
555	————komahagi	コマハギ
556	<i>Bradleya sinica</i> P.S	カンコノキ
(36 Plantaginaceae)		(第36科 オオバコ科)
557	<i>Plantago asiatica</i> P.S.	チヨウセンヲバコ
558	————major Th. fl.	ヲバコ、車前
559	<i>Plantago turumukina</i> M.Z. lit.9 e jezo	エゾヲバコ
(37 Nyctaginaceae)		(第37科 オシロイバナ科)
560	<i>Mirabilis hybrida</i> P.S.	ヲシロイバナ、紫茉莉
561	<i>Stalice limonium</i> Th. fl.	ハマゴボウ
(38 Primulaceae)		(第38科 サクラソウ科)
562	<i>Primula cortusoides</i> Th. fl.	サクラサウ
563	————hirsuta Sieb.	カツコサウ
564	————kurinsoo Jap.	クリンサウ
565	————iwaitjoo Jap.	イワイチヤウ
566	————jukiwarisoo	ユキワリサウ
567	————? iwagirisoo	イワギリサウ
568	<i>Lysimachia japonica</i> Th. fl.	コナスビ、黄花繁縷、別書に (<i>Lysimachia</i> クサレダマ)
569	<i>Lysimachia okotaranoo</i>	ヲカトラノヲ
570	————numataranoo	ヌマトラノヲ
571	<i>Lysimachia kinojanagisoo</i> Jap.	キノヤナギサウ
572	————flor. albis	ミヤマタゴボウ
573	<i>Linaria</i> ? unran	ウンラン
(39 Personatae)		(第39科 仮面状花冠科)
574	<i>Melampyrum mamakona</i> Jap.	マヽコナ
575	<i>Scrophularia glabrata</i> PS.?	ヒナウスツボ
576	————flor. purpurus	ゴマノハグサ
577	————albicaulis	
578	<i>Gerardia japonica</i> Th.	
579	<i>Pedicularis taburisoo</i> Jap.	タブリサウ、○コシホガマ

480	-----hamire	ハルニレ
481	-----kejaki Jap.	ケヤキ
482	-----(?) jagiri J.K.	ヤギリ
483	-----inukejaki jap.	イヌゲヤキ
484	Quercus glabra	マテガシ、ツクバ子ガシ
485	-----acuta Th. ?	アカマシノ類
486	-----akagasi Jap.β	アカマシ
487	-----tsukubanegasi	ツクバ子ガシ
488	-----konara Jap.α	コナラ
489	-----koboso β	コボウソ
490	-----nara Jap.	ナラノカシワ
491	-----dentata Th.	オホボウソ
492	-----cuspidata Th.	シイ
493	-----glauca Th.	アラカシ
494	-----sirakasi	シラカシ
495	Fraxinus toneriko Jap.	ト子リコ
496	Carpinus side Jap.	シデ
497	-----kwarabuna ?	カワラバナ乎
498	-----kumaside M.Z.	クマシデ
499	-----akaside M.Z.	アカシデ
500	-----komeside O.Z.	コメシデ
501	Morus (alba) Th. fl.	トヲグワ
502	-----indica Th. fl.	ヤマグワ
503	-----japonica Sieb.	ヤマグワノ一種
504	-----? kwakusa M.Z.	クワクサ

(34 Urticeae)

(第34科 イラクサ科)

505	Urtica nivea Th. fl.	カラムシ
506	-----bitida Sieb.	アツイタ
507	-----dioica ? Th. fl.	イラクサ、蕁麻
508	-----macrophylla Th. fl.	ヤブマオ、苧麻一種
509	-----spicata Th.	アカソ βアカソノ類、苧麻一種
510	-----hosobanoirakusa Jap.	ホソバノイラクサ
511	Urtica dioica? var.β	上野ハレナ山イラクサ、圭自ラ采ル所ナリ、再按即ギヨクシユク艸
512	Xanthium strumarium Th. fl.	オナモミ、蒼耳
513	Cannabis sativa Th. fl.	アサ、麻
514	Humulus japonica Sieb.	カナムグラ、葎艸
515	-----lupulus Th. fl.	カラハナサウ、葎艸一種
516	Calycanthus praecox α petalis convolutis	ラウバイ、蠟梅
517	-----praecox β petalis rotundalis	シンノラウバイ
518	Boehmeria(Procris) frutescens Th.	ヤブマヲノ類
519	----- (Procris) janagiitsigo Jap.	ヤナキイチゴ
520	Broussonetia atsu	アツ
521	-----kazi Sieb.	カジノキ
522	-----papyrifera Vent.	カウゾ、○カミノキ
523	-----kidatsinokadjinohaitsigo	キダチノカジノハイチゴ
524	-----kempheri Sieb.	カジノハイチゴ
525	Ficus pumila sive stipulata Th.	クイタビ ^β
526	-----erecta Th.	イヌビワ
527	-----β	ホソバノイヌビワ
528	-----hirta P.S.	イチジク
529	-----higodsuta Jap.	ヒゴツタ
530	-----aktsinoki	アクチノキ
531	-----jtabikadsura Jap.	イタバカズラ

426	-----zuunzo Sieb.	ジウンザウクロモジ
427	-----glauca Sieb.	アワブキ
428	Sassafras inukuromotsi Sieb.	イヌクロモジ
429	-----kanakugi Jap.	カナクギ

(33 Amentaceae)

(第33科 尾状花冠植物)

430	Castanea vesca α vulgaris	クリ
431	----- γ in syloris sponde	チウグリ
432	-----pumila Miller	シバグリ
433	-----vesca β	タンハクリ
434	Fagus bunanoki Jap.	ブナノキ
435	Alnus harinoki Jap.	ハリノキノ類
436	-----no 2	ハリノキ
437	-----meharinoki Jap.	メハリノキ
438	-----? hakarinome	ハカリノメ
439	-----jamahanoki Jap.	ヤマハンノキ
440	-----minebari Jap.	ミ子バリ
441	Betula japonica Th.	シロカンバ
442	-----inuside Jap.	イヌシデ
443	-----midsume Jap.	ミツメ
444	Nageia nagi Th.	ナギ
445	Betula tekekanba	タケカンバ
446	-----ubai H.M.Z	ヨメツリ
447	Populus jomefuri	ハコヤナギ
448	-----sawasiba J.K.	サワシバ
449	Salix japonica Th.	シダレヤナギ
450	-----sieboldiana Bl.	ヤマヤナギ
451	-----jwajanagi Jap.	イワヤナギ
452	-----β	コブヤナギ
453	-----tatsijanagi	タヤチヤナギ
454	-----integra Th.	
455	-----kawayanagi Jap.	カワヤナギ
456	Quercus gemelliflora Bl.	ナラシバ
457	-----inukasi J.K.	イヌカシ
458	-----ookasi J.K.	ヲハガシ
459	-----tsukubanekasi H.J.K.	ツクバネカシ
460	-----hirjookasi	ヒリヨウガシ
461	-----hosobakasi	ホソバカシ
462	-----mijamaooso	ミヤマホウソ
463	-----	コボウソ乎、一作櫛一種オホボウソ乎
464	-----serrata Th.	クヌギ
465	----- [jamabiwa Sieb.]	ヤマビワ
466	-----jtsikasi	[イチイカシ]
467	-----glabra Th.	マテガシ
468	Juglans nokurumi	ノグルミ
469	Juglans kurumi	クルミ
470	Juglans oobakoerumi M.Z	ホオバクルミ
471	Juglans corencensis Sieb.	ヲニグルミ
472	Liquidambar styraciflora Pus.	カイデ
473	Corylus americana Pus.	ハシバミ
474	-----tsunohasibami Jap.	ツノハシバミ
475	Fraxinus aotoneriko M.Z.(?)	アヲト子リコ
476	-----oobanotoneriko J.K.	ヲハノト子リコ
477	Celtis orientalis Th. fl.	エノキ
478	-----muku Jap.	ムク
479	Ulmus japonica Sieb.	アキニレ

377	—————β rubrus	アカビユ
378	Beta vulgaris Th. fl.	フダンサウ
379	—————βman, 一作mun	ウズマキダイコン
380	Spinacia oleracea Th. fl (e china introducta)	ハウレンサウ、菠薐、蘭ムースコロイチケスピナギー
381	Celosia argentea Th. fl.	ノゲイトウ
382	—————cristata Th. fl.	ケイトウ
383	Salsola okahisiki Jap.	ヲカヒヂキ
384	Achyranthus aspera Th. fl.	イノコヅチ
385	Gomphraena globosa Th. fl.	センニチサウ、千日紅 林氏五卷卅九図アリ
386	—————β	
387	Phytolacca octandra Th. fl.	ヤマゴボウ、商陸
(29 Santaleae)		(第29科 ビャクダン科)
388	Osyris japonica	ハナイカタ
389	Stellera japonica Sieb.	コガンビ
390	—————ganpi Sieb.	ガンビ
391	Quisqualis indica ?	シクンシ、使君子
392	Calycopteris joani	ツクバ子
393	Daphne odora Th. culla α	ヂンチヤウゲ、瑞香
394	—————sponte	コシヤウノキ、白瑞香
395	D. oniswari Jap.	ヲニシバリ
396	—————zigenzi Sieb.	シゲンジ、芫花
397	—————papyrifera Sieb.	ミツマタ、黄瑞香
398	Elaeagnus pungens Th.	ナツグミ、木半夏
399	—————macrophylla Th.	トウグミ
400	—————umbellata Th.	アキグミ、木半夏一種、βカハラグミ同一種
401	—————glabra Th.	ヒグミ
402	—————crispa Th.	ナワシログミ
(30 Thymelaeaceae)		(第30科 ジンチョウゲ科)
(31 Proteaceae)		(第31科 ヤマモガシ科)
(32 Laurineae)		(第32科 クスノキ科)
403	Cinnamomum camphora Sieb.	クスノキ
404	—————cassia Nees.	ナンキンニツケイ
405	—————maruba Sieb.	マルバノニツケイ
406	—————japonicum Sieb.	ヤブニツケイ
407	Litsaea thunbergii Sieb.	ハマビワ
408	—————glauca Sieb.	シロタム、β一種黄実
409	Cinnamomum sericeum Sieb.	カウチニツケイ
410	Litsaea matsuranikkei Jap.	マツラニツケイ、紅花者、或云コウケイ
411	—————trinerius Pus.	ar
412	Laurus indica Th. fl.	イスグス
413	Laurus amatsbaki	アマツバキ
414	—————sugoenoki Jap.	スグノキ
415	—————mimizubai J.K.	ミヽズバイ
416	—————hotoo Jap.	ホトウ
417	—————awokasi Jap.	アラガシ
418	—————kagonoki Jap.	カゴノキ
419	—————koobok	サツマカウボク
420	—————? irijamadake Jap.	イリヤマダケ、? 衡州烏薬
421	Sassafras officinalis	シロモジ、βハタウコン
422	—————thunbergii L. α	クロモジ
423	—————thunbergii L. β	オホバクロモジ
424	—————piperix Sieb.	アワブキ、毛アルモノ
425	—————glabra Sieb.	テハジキツサ

327	—— ? iwakimo	イワヒモ
328	Serapias ? no1	ナギリラン、一作ホギリラン
329	Orchidea 2 kamomesoo	カモメサウ
330	—— tokisoo	トキサウ
(25 Stylidiaceae)		(第25科 スティリディウム科)
(26 Aristolochaceae)		(第26科 ウマノスズクサ科)
331	Asarum canadense Th. fl.	サイシン
332	——virginicum Th. fl.	カンアヲヒ
333	——kamoawoi M. Z. abb. fas	カモアファイ
334	Aristolochia kaempferi Th.	ムマノスماغサ
(27 Polygonaceae)		(第27科 タデ科)
335	Polygonum bistorta Th. fl.	イブキトラノヲ、拳参
336	Polygonum kawasusoba J. K.	カワズソバ
337	——natstade Jap.	ナツタデ
338	——filiforme Th.	ミヅヒキ、金線艸(誤) 椎再考
339	——barbatum Th. fl.	クタデ
340	——odorum Sieb.	サツマケタテ
341	——inutade Jap.	イヌタテ
342	——orientale Th. fl.	ヲホケタデ、葎草
343	Polygonum orientale Th.	ニワヤナギ、蒿蓄
344	——chinense Th. fl.	ア井、藍
345	——perfoliatum Th. fl.	イシミカワ、杠板飯
346	——hastatum Th. fl.	ウナギヅル、雀翹(?) 椎再考
347	——sagittatum Th. fl.	ミゾソバ
348	——fagopyrum Th. fl.	ソバ
349	——multiflorum Th. fl.	イタドリ
350	——β	ベニイタドリ
351	——convolvulus Th. fl.	カシウ
352	——tsurusoba Jap.	ツルソバ
353	——sakuratade Jap.	サクラタデ
354	——matade Jap.	マタデ
355	——ontade Jap.	ヲンタデ
356	——jwatade β	ヤナギタデ
357	——ooinutade	オハイヌタデ
358	——chinense Th. fl. var. β	コヲナンタイセイ
359	Rumex persicarioides Th. fl.	スイバ
360	——crispus Th. fl.	ギシギシ
361	Lapathum madaio Jap.	マダイヲウ
362	Rheum tartaricum Pus.	ダイヲウ
363	Rheum palmatum P. S.	
(28 Chenopodeae)		(第28科 アカザ科)
364	Chenopodium album Th. fl.	シロザ
365	——maritimum	マツナ
366	——α	アカザ
367	Chenopodium ambrosioides Th. fl.	アリタサウ
368	Kochia scoparia R. S.	ホヲキクサ、地膚
369	[Chenopodium] virgatum Th	ハマアカザ
370	Basella rubra Th. fl.	ツルムラサキ
371	Amaranthus tricolor	ハゲイトウ、十様錦
372	——bicolor	ハゲイトウ、雁来黄
373	——(purpureus?)	ハゲイトウ、雁来紅
374	——caudatus Linn.	エンコウゲイトウ
375	——oleraceus	ヒユ
376	——japonicus α	ノヒユ、別書 [Amaranthus オランダビユ]

276	<i>Nuphar japonica</i> Jap.	ヒメカウホ子
277	----- <i>kalmiana</i> DC	カウホ子、萍蓮艸、 β ベニカウホ子
278	<i>Alisma aginasi</i> Jap.	アギナシ
279	<i>Nelumbium speciosum</i> DC	蓮
280	<i>Trapa natans</i> Th.fl.	ヒシ
281	----- <i>bicornis</i> P.S.(e china)	トウヒシ
(22 Scitamineae)		(第22科 ショウガ科)
282	<i>Canna indica</i> Th. fl.	ダンドク
283	<i>Ammomum</i>	シヤウガ
284	----- <i>sioka</i>	ミヤウガ
285	<i>Globba japonica</i> Th. fl.	ハナシヤウガ
286	no 1	クマタケラン、 β アヲノクマタケラン
287	no 2	艸蓂
288	no 3	白豆蔻
289	no 4	三奈
290	no 5	姜黄
291	no 6	縮砂
292	no 7	萹艸蔻
293	no 8	我朮
(23 Musaceae)		(第23科 バショウ科)
294	<i>Musa basjoo</i> Jap.	ハシヤウ
295	-----	ヒジンセウ
(24 Orchideae)		(第24科 ラン科)
296	<i>Orchis japonica</i> Th.	ダイサキサウ
297	----- β	ムカゴサウ
298	----- <i>radiata</i> Th.	サキサウ
299	----- <i>tsidorizoo</i> Jto Keiske	シロノチドリサウ
300	<i>Orchis tsitorisoo</i> J.K.	チトリサウ 下野赤沼産
301	<i>Epidendrum nervosum</i> Th.	エヒ子
302	----- <i>striatum</i> Th.	シラン
303	----- <i>jamaran</i> Jap.	ホクリ、ヤマラン
304	----- <i>caudatum</i> Th.	ラン、建蘭
305	----- <i>teres</i> Th.	ボウラン
306	----- <i>moniliforme</i> Th.	セツコク
307	<i>Limodorum falcatum</i> Th.	フウラン
308	-----? <i>nagoran</i> Jap.	ナゴラン
309	----- <i>kajara</i> Jap.	カヤラン
310	<i>Neottia aestivalis</i> Pus	モジズリ
311	----- <i>repens</i> Pus.	トヨシマラン
312	<i>Cypripedium japonicum</i> Th.	クマガエサウ
313	----- <i>koatsumori</i> Jap.	コアツモリ
314	<i>Serapias falcata</i>	キザンラン
315	----- <i>falcata</i> Th. fl.	スバカキラン
316	<i>Orchidea suzumusiran</i> H.M.Z.no15	スダムシラン
317	----- <i>tonbozoe</i> H.M.Z.lib.o.	トンボウサウ
318	----- <i>tsjokurjusei</i> M.Z.	チヨクリウセイ
319	----- <i>iwaran</i> M.Z.	イワラン
320	----- <i>joarakran</i> M.Z.	ヤウラクラン
321	----- <i>sukerokran</i> S.	スケロ克蘭 濃州武儀郡上麻生山中ニ産ス
322	<i>Orchidea nagirann</i> M.Z.	ナギラン
323	----- <i>moegiran</i> M.Z.	ムギラン
324	----- <i>iwatsidori</i> J.K.	イワチドリ
325	----- <i>sawaran</i> J.K.	サワラン
326	----- <i>nankakuran</i> M.Z.	ナンカ克蘭、圭按此説非

224	-----nigrum Sieb.	クロユリ
225	Lilium speciosum Th.	ヤマノカノコユリ
226	Lilium pomponicum Th	ヤマノユリ
227	Hemerocallis graminea P.	キスゲ
228	-----fulva Th. fl.	クワンソウ
229	-----lanceolata β	サジギボウシ
230	-----japonica	イワギボウシ
231	-----giboosi	キボウシ
232	-----acuta	
233	-----marginata Sieb.	ヤキバギボウシ
234	-----undulata Sieb.	スジギボウシ
235	-----cordata Sieb.	トウギボウシ
236	-----cucullata Sieb.	タマノカンザシ
237	Crinum americanum DC.	ハマヲモト
238	Scilla japonica Th.	セウゼウハカマ
239	Ornithogalum edule Sieb.	アマナ
240	-----japonicum Th.	ツルボ
241	Pollia japonica Th.	ヤブミヤウガ
242	Aloe adan Jap. W.B.	アダン、龍舌艸
243	Allium cepa Th.fl.	子ギ
244	Allium	キヤウジヤニンニク
245	-----sativum Linn.	オハビル、○ニンニク
246	-----tenzjoonebuka Jap.	テンシヤウ子ブカ
247	-----senescens	ニラ
248	Amaryllis sarniensis	マンジュウサケ
249	-----flor. rosea	ナツズイセン、キツノカミソリ、鉄色箭
250	-----flor. lutea	ナツズイセン、富人草
251	Narcissus tazetta Th.	スイセン
252	Hypoxis spicata Th.	ソクシンラン
253	Commelina polygama R.S.	ツユクサ
254	-----no 1	毛生ツユクサ、即ケヤマタノアオクサ
255	-----no 2	小ツユクサ
256	-----no 3	イボクサ
257	Tradescantia discolor	ムラサキヲモト

(20 Irideae)

(第20科 アヤメ科)

258	Iris japonica	シヤガ
259	-----sibirica	ヒメシヤガ
260	-----ajame (orientalis ?)	アヤメ
261	-----cusata Th.	カキツハタ
262	-----itsihats	イチハツ
263	-----hanasjoob	ハナシヤウブ
264	-----kokakitsubata	コカキツハタ
265	-----barin	ハリン
266	Moraea chinensis Th. fl.	ヒアフギ

(21 Hydrocharides)

(第21科 トチカガミ科)

267	Sagittaria sagittata β edulis Sieb.	クワイ
268	-----angustifolia Bank.	ヲモダカ
269	-----? kurokuwaji	クログワイ
270	-----mameguwaji	マメグワイ
271	Pontederia vaginalis Th.	ミズアファイ、雨久花
272	Alisma sendaitakusja Jap.	センダイタクシヤ
273	-----saziomodaka Jap.	サジオモダカ、水沢瀉
274	Euryale ferox DC	ヲニバス、茨
275	Castalia blanda DC	ヒツジグサ、睡蓮

172	-----no 5	サンキラヒ
173	-----no 3	シラデノ類
174	-----no4	ヤマカシウ
175	-----bellora	ヒメカカラ
176	Smilacina no nabewari Jap.	ナベワリ
177	-----?	タケシマラン
178	----- japonica Sieb.	ヲホユキザ、
179	Ruscus? hjakoeboe Jap.(e china)	キダチノヒヤクブ木
180	-----	ツルダチノヒヤクブ
181	Dioscorea sativa Th. fl.	カシウイモ
182	-----opposita Th.	ツク子イモ
183	-----septemloba Th. fl.	トコロ、葎藤
184	----- japonica Th. fl.	ヤマイモ
185	(Bryonia japonica) rerudeum in hydrone、一作rewaduisin	ツヅラフジ
186	Rajaniae Th.	アケビ、木通
187	-----trifolia Sieb.	ミツバアケビ
188	-----hexaphylla Th.	ムベ
189	Uvularia cirrhosa Th.	ハルユリ、貝母
190	-----sessilis Th.	ホウチヤクサウ
191	----- sessilis Th. β	ヒメナルコユリ
192	----- γ	トウチクラン
193	-----hirta Th. fl.	ホト、ギス
194	? jukisasa Jap.	ユキザ、鹿薬
195	Streptopus? katakoeri	カタクリ
196	Convallaria multiflora	アマドコロ、萎蕤
197	Convallaria japonica (Slateria Desv.)	ジヤノヒゲ、沿階艸
198	Slateria jaburan Sieb.	ヤブラン、麦門冬
199	-----repens Sieb.	吉祥艸
200	Convallaria polygonatum var.β	ヒメアマドコロ、萎蕤
201	-----polygonum ?	アマドコロ
202	-----bifolia P.S.	マイヅルサウ、按林氏七卷十二図アリ
203	-----majalis Linn.	キミカケサウ
204	Streptopus tsigojuri M.Z.n	チゴユリ
205	Convallaria	ナルコユリ、黄精
206	Paris incompleta Marsch.	クルマバナツクバ子サウ、八葉王孫
207	-----quadrifolia Th. fl.	ツクバ子サウ、王孫
208	Paris? tsmatorikoesa Jap.	ツマトリグサ
209	-----? gozentatsibana Jap.	ゴゼンタチバナ
210	Asparagus tamabooki M.Z.	タマボウキ、林氏六卷十二図アリ
211	Asparagus falcatus Th.fl.	テンモンドウ
212	-----officinalis ? Th. fl.	ヒメソウチク
213	-----officinalis Th. fl.	ヲランダ、子ノキジカクシ

(19 Coronariae)

(第19科 ユリ科)

214	Lilium longiflorum α aelita	リウキユリ
215	----- β sponte H.Jt.Keis.	タメトモユリ
216	Lilium takesimajuri	タケシマユリ
217	-----kurumajuri	クルマユリ
218	-----	日光ヤマユリ
219	-----cordifolium Sieb.	ウバユリ
220	-----tigrinum carlis	ヲニユリ
221	-----croceum α	ヒメユリ
222	----- β	キヒメユリ
223	-----phyladelphicum Th.fl.	スカシユリ

120	-----? arecae	ビンロウジ、檳榔
121	Areca var.	タイフクヒ、大腹皮
122	Cycas revoluta Th.	ソデツ、鳳尾蕉

(17 Coniferae) (第17科 球果植物)

123	Pinus sylvestris Th. fl.	クロマツ、黒松
124	-----β rubra	メマツ、赤松
125	-----γ hitotsumats	ヒトツマツ
126	-----verticillata Sieb.	カウヤマキ
127	-----cembra Th.	ゴヨウノマツ
128	-----strobis Th.	カンシヤウ
129	Larix foetzimats Japo	フジマツ
130	Abies toomomi	トラノミ
131	Abies toranoo Jap. no 1	トラノオ
132	-----sagamomi Japo.no 1	サガノミ
133	-----momi Japo no 2	モミ
134	-----zuuramomi Jap no β	シユラノミ
135	-----sirabizo Jap.	シラビソ
136	-----tsgha	ツガ
137	-----β himetsugha Jap.	ヒメアララギ ヒメツガ
138	Juniperus virginica Th.	ハイビヤクシン
139	-----barbadensis Th.	イブキ
140	-----communis Th.	子ズムロ、杜松
141	-----β var.	ヤワラスギ、温杉
142	-----jorenezu	ヨレ子ズ、杜松一種
143	Cupressus japonica Th.	スギ、杉
144	-----β enkoosugi	エンコウスギ
145	-----γ birootosuki Jap.	ビロウドスギ
146	Taxus nucifera Th.	カヤ、榧
147	-----macrophylla Th.	マキ、羅漢松
148	Taxus inoekoju Japo.	イヌカヤ
149	-----canadensis L.M.	イチイ
150	-----corea	チャウセンヒノキ
151	-----baccata Linn. (Jezo)	エゾアラハギ
152	-----debokaja Japo.	デボガヤ
153	Thuja hinoki Jap.	ヒノキ
154	-----dolabrata Th.	アスナロ、羅漢柏
155	-----pendula Sieb.	イトスギ
156	-----sawara Jap.	サワラ
157	-----sinobu Jap.	シノブヒバ
158	-----konote Jap.	コノテガシワ、センジュ
159	-----Th. sitare Jap.	シタレヒバ
160	-----hinoki β	チウシチシバ
161	-----tsijabo Jap.	チャボヒバ
162	-----hijoku Jap.	ヒヨクヒバ
163	-----nezu Jap	子ズ
164	Cupressus Abies二作	カウヨウザン
165	Abies ? e Jezo	エゾマツ
166	Salisburia ginkoo Th.fl.	イチヤウ

(18 Sarmantaceae) (第18科 つる植物)

167	Smilax china Th.fl.	サルトリイバラ
168	-----siode var. fol. lauceolatis	ホソバシホデ
169	-----pseudochina Th.	シヲデ
170	-----no 1	サルトリイバラノ一種
171	-----no 2	シヲテノ一種

68	<i>Festuca pauciflora</i> Th.	キツ子ガサ
69	-----no 1	タツノヒゲ
70	<i>Bromus</i> no 2	カモジグサ
71	-----no3	カニトリグサ
72	<i>Poa</i>	ノガリヤス
73	<i>Poa</i>	ニワホコリ
74	<i>Festuca</i> ?	ミノボロ
75	<i>Melica Carex</i> 二作ル	カウボウシバ、茅香
76	<i>Eleusine indica</i> R.S.	チカラグサ
77	<i>Chloridea</i> no 1	サハグリ
78	<i>Hordeum hexastichon</i>	オホムギ
79	----- β	ハダカムギ
80	----- γ	アカハダカムギ
81	<i>Triticum vulgare</i> Ser.	コムギ
82	<i>Erianthus japonicus</i> R.S. no 1	ヲキ
83	<i>Erianthus tinctorius</i>	カリヤス
84	<i>Erianthus</i> no 3	カヤ
85	<i>Erianthus</i> no 4	ススキ、マスホノスゝキ
86	<i>Imperata thunbergii</i> R.S.	チガヤ
87	<i>Andropogon crinitum</i> Th.	チヤウセンガリヤス
88	<i>Anthistiria setosa</i> Th.	ヲカルカヤ
89	<i>Echinochloa crus-galli</i> β in aques	ミツヒエ
90	<i>Arundo nitida</i> ham bok	ヨシタケ
91	<i>Saccharum sinense</i> (liukiu)	サトウキビ
92	<i>Zizania palustris</i> P.S.	
93	<i>Oryza urusi kome</i>	ウルシゴメ
94	wase	ワセ
95	nakate	ナカテ
96	okute	ヲクテ
97	2 taitookome	タイトウゴメ
98	3 motikome	モチゴメ
99	boodsmotsi	ホウズモチ
100	<i>Mays vulgaris</i>	ナンバンキビ
101	-----a spica aurea	キナノナンバンギビ
102	-----b purpurea	アカノナンバンキビ
103	-----c variegata	フイリノナンバンキビ
104	<i>Leersia hispida</i> Th.	ナルコビエ
105	<i>Coix lacryma</i>	スゝタマ
106	-----var. chin.	ヨクイ
107	<i>Andropogon</i>	ウシクサ
(15 Junceae)		(第15科 イグサ科)
108	<i>Juncus</i> no 1	カウガイセキシヤウ
109	-----hupis [effusus]	井、燈心艸
110	-----var.	フト井
111	<i>Luzula</i>	スゝメノヒエ
112	<i>Melanthium luteum</i> Th.	シライトサウ、鶉葱
113	-----sibiricum Pas.	シユロサウ、藜蘆
114	-----iwajobu	イワセウブ
(16 Palmae)		(第16科 ヤシ科)
115	<i>Chamaerops excelsa</i> Th.	シユロ、棕櫚
116	-----surotsik Sieb.	シユロチク、棕竹
117	-----kwannontsik	クワンランチク
118	-----biroo	ビロウ
119	<i>Palma?</i> tsukunoki	ツグノキ

16	<i>Arum dracunculus</i> Th.	テンナンシヨウ、天南星
17	----- <i>ringens</i> Th.	ムサシアフミ、天南星一種
18	----- <i>ternatum</i> Th.β <i>sikahange</i>	シカハンゲ
19	----- <i>trilobatum</i>	ダイハンゲ、齊州半夏
20	----- <i>toohange</i> Sieb.	トウハンゲ
21	----- <i>esculentum</i> β <i>koewadsuimo</i>	クワズイモ、野芋
22	----- <i>toonimo</i>	トヲノイモ、紫芋
23	----- <i>jukimotizoo</i>	ユキモチサウ、天南星一種
24	-----? <i>zazenoo</i>	ザゼンサウ、地湧金蓮
25	-----? <i>mizubasoo</i>	ミヅバシヤウ、海芋
26	<i>Dracontium polyphyllum</i> Th.	コンニヤク
27	<i>Houttuynia cordata</i> Th.	ドクダミ
28	<i>Orontium japonicum</i> Th.	ヲモト、万年青
29	<i>Acorus calamus</i>	セウブ、白菖
30	----- <i>pusillus</i> Sieb.	セキシヤウ、石菖蒲
31	----- <i>gramineus</i>	カウライセキシヤウ
32	<i>Sparganium</i>	ヲサガヤツリ、石三稜
33	<i>Typha</i>	ガマ

(13 Cyperaceae)

(第13科 カヤツリグサ科)

34	<i>Cyperus ingenera</i>	カヤツリグサ類数種
35	<i>Cyperus</i> no 3	クバ
36	<i>Cyperus</i> no	カウフシ、香附子
37	<i>Carex</i>	スケノ類
38	<i>Carex</i> no 20	カウボウムギ、薹艸
39	<i>Carex</i> no 19	カウハシバ
40	<i>Carex</i> no 7	イワスゲ、石三稜一種
41	<i>Carex</i> no 24	イトスゲ、崖稷
42	----- β	スゲ
43	-----no 8	ナルコスゲ
44	<i>Scirpus macrostach.</i>	カマスゲ、カサスゲ
45	-----no 2	タマ井
46	-----no 9	ホシクサ、穀精艸
47	-----no 6	ウシノケグサ
48	----- <i>acicularis</i>	コヲゲ

(14 Gramineae)

(第14科 イネ科)

49	<i>Agrostis ciliata</i> Th.	子ヅミノヲ
50	<i>Milium globosum</i> Th.	スカキビ
51	<i>Polypogon</i>	ヒエカヘリ
52	<i>Alopecurus</i> var. <i>α</i>	スバメノテツホウ、看麦娘
53	<i>Phalaris arundinacea</i> Th.	クサヨシ
54	<i>Agrissedeae</i> [<i>Agrostis</i>] <i>dubia</i>	ブイクサ
55	<i>Panicum</i> no 1 ?	エノコログサ、狗尾艸
56	----- <i>mileaceum</i> Se	シロキビ
57	<i>Echinochloa crus-galli</i> R.S.	クロキビ
58	<i>Panicum italicum</i> Ser.	アハ
59	<i>Cenchrus purpurascens</i> Th.	チカラシバ
60	<i>Cynodon</i> no 1	メヒシバ、馬唐
61	<i>Cynodon</i> no 2	
62	<i>Paspalum dissectum</i> Th. fl.	スバメノヒエ
63	<i>Leersia</i> ?	ミノゴメ
64	<i>Ischaemum</i> no 4	カルカヤノ類
65	<i>Ischaemum</i> no 3	カルカヤ
66	<i>Avena sativa</i> ?	カラスムギ
67	<i>Andropogon</i>	コブナグサ

付表 神田外語大学附属図書館所蔵 伊藤圭介・賀来佐之録「日本植物目録」

「日本植物目録」：神田外語大学附属図書館洋学文庫所蔵Naamlijst van Japansche gewassen（日本植物目録）を翻刻した。この筆写本には蘭文書名の他に「伊藤圭介・賀来佐之全録」とある。原本はシーボルトの草稿「日本植物目録」（Siebold, *Plantarum japonicarum nomina indigena*. ルール大学ボーフム東アジア学部付属図書館書室所蔵、1. 173. 000）であるが、和名が一部改訂され、漢名が付け加えられている。

「学名」：通行の表記法に従った。誤記・脱字などは上記のシーボルト草稿原本等により訂正した。出典の略称はほぼ原文のままとした。

Bl. : C.L.Blume, *Kruidkundige waarnemingen*. Batavia, 1825.

DC. : A.P.de Candolle, *Prodromus systematis naturalis regni vegetabilis*. Pars prima. Paris, 1824.

L.E. : De Lamarck, *Dictionnaire encyclopédique de botanique*. Paris, 1789.

P.S. : C.H. Persoon, *Synopsis plantarum, seu Enchiridium botanicum*. Paris et Tubingen, 1805-07.

R.S. : Caroli A.Linné, *Systema vegetabilium*. J.J. Roemer et J. A. Schultes, vol.1-6, Stuttgart, 1817-1820.

Ser. : N.C.Seringe, *Monographie des céréales de la Suisse*. Berne, 1818.

Th. : C.P.Thunberg, *Plantarum japonicarum novae species*. Dissert. respondent O.A. Wallström, Upsala, 1824.

Th.fl. : C.P.Thunberg, *Flora japonica*. Leipzig, 1784.

Sieb.,S. : シーボルト

M.Z. : 水谷助六（豊文）

J.K. : 伊藤圭介

O.Z. : 大河内存真

「科」：分類法は、シュプレングルの『植物学入門』（K.P.J.Sprengel, *Anleitung zur Kenntniss der Gewächse*, 1817-18）による。シーボルトが記さなかった科番号・科名をシュプレングルに従って（ ）内に記した。

番号	学名	和名・漢名
	(1 Fungi)	(第1科 真菌類)
	(2 Algae)	(第2科 藻類)
	(3 Lichenes)	(第3科 地衣類)
	(4 Homallophyllae)	(第4科 菌蕈類)
	(5 Hepaticae)	(第5科 苔類)
	(6 Musci)	(第6科 蘚類)
	(7 Filices)	(第7科 シダ類)
	(8 Pteridaceae)	(第8科 イノモトソウ科)
	(9 Lycopodiaceae)	(第9科 ヒカゲノカズラ科)
	(10 Equisetaceae)	(第10科 トクサ科)
	(11 Naiades)	(第11科 イバラモ科)
1	Lemna ukikoesa	ウキクサ、萍
2	Lemna?	アカウキクサ、満江紅
3	Potamogeton	ヒルムシロ、眼子菜
4	-----no 2	キンギヨモ、聚藻一種
5	-----no 3	エビモ、馬藻一種
6	Chara	キンギヨモ、聚藻
7	w.g.o no1	デンヂサウ、蕨
8	w.g.o no2	シカノスギモ
9	w.g.o no3	サンシヤウモ、槐蕨
10	w.g.o no4	ミツヲバコ
11	Hydrocharis spongiosa α-e	トチカマミ、水鼈
12	-----	ミツアサガラ
13	Potamogeton	馬藻類
	(12 Aroideae)	(第12科 テンナンショウ科)
14	Piper	フウトウカヅラ、土萋藤
15	Saururus cernuus Th.	カタシロ、三白艸